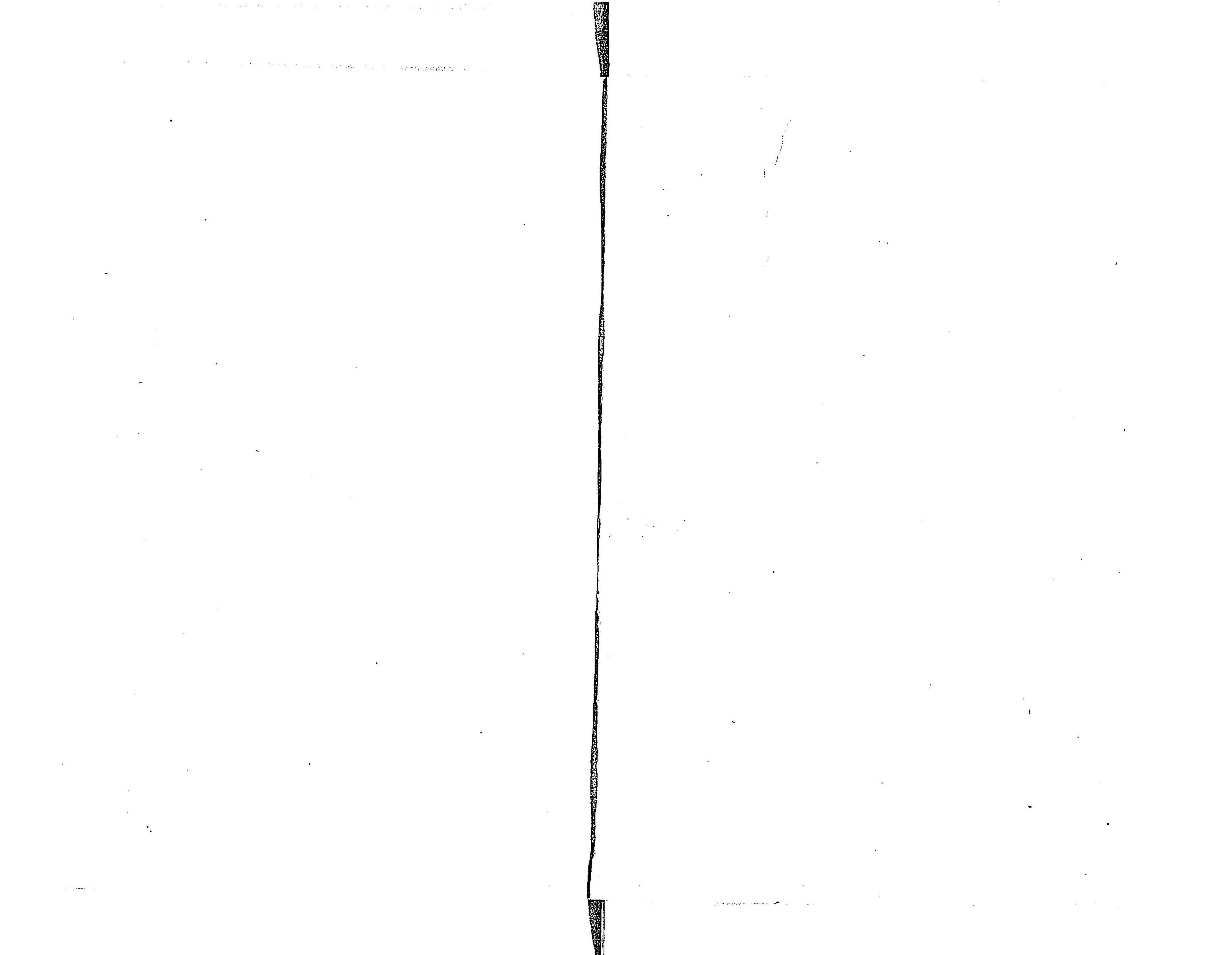


市岡正一著

改正
徵兵令註釋

博聞社藏版



特47
10

市岡正一著

改正
徵兵令註釋

博聞社藏



改正徵兵令註釋

儲言

本書ハ改正徵兵令ノ每條ニ付註記説明ヲ施シタルモノニシテ其解釋タル專ラ平易ヲ旨トシ以テ傍訓ヲ付ス而シテ其傍訓タル敢テ字義ニ適セサルモノアルヘシト雖モ之世俗ヲシテ解シ易カラシメンカ爲メナリ

現役徵集ハ年齡滿二十歳トナル年ノ翌年四月ナルヲ以テ一月ヨリ四月ノ間ニ生レタル者ニ在テハ徵集ノ期ニ至リ年齡滿二十一歳ニナリ其五月以降誕生セシ者ニ於テハ未タ滿廿一歳ニ至ラサルモ皆其年内ニ於テ滿廿一歳トナルヘキモノタレハ註釋ニ於テハ單ニ滿二十一歳ヲ以テ徵集ノ年トナシ滿廿四歳ノ四月ヲ以テ現役滿期豫備役編入ノ期トナシ以下此例ニ依リ記載セシモノトス

前令免否徵集猶豫ノ項目ニ當ルモノ新令ニ於テ免否猶豫ノ分界等ヲ
 記註スルモノハ客年陸軍省達甲第四十四號達ノ趣旨ニ基キタルモノ
 トス
 本書ノ未舊令中除役免役徵集猶豫等ノ條件ヲ掲載シ以テ註記論述セ
 シモノハ新舊兩令ヲ比照シ舊令ニ於テ其名稱ヲ有セシモノヲシテ新
 令ニ於テ猶豫ノ如何ヲ了セシメンカ爲メナリ

明治十七年一月

編者誌

改正徵兵令註釋

目次

第一章	總則	一丁
第二章	服役	八丁
第三章	免役及ヒ猶豫	十八丁
第四章	徵兵區及ヒ抽籤	五十五丁
第五章	補充員及ヒ豫備徵員	六十一丁
第六章	雜則	六十九丁
附錄	徵兵令改正ニ付心得方 <small>陸軍省達甲第四十四號</small>	八十七丁
注意	新舊法ニ基キ免否猶豫ノ要件 <small>舊新說明</small>	九十丁
追錄	改正以前ノ戶主徵集ノ例規	百十九丁

丁數

正誤

八	十九	二十	全	廿五	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	全	四十八	四十九	五十一	五十二
九	九	五	六	七	二	二	二	三	三	二	六	九	二	二	三
行															

〔註釋〕ハ右ノ(二)ト並行スヘキヲ誤ル
 (後備軍)ノ下ヲ脱ス
 (徵兵)ハ(徵集)ノ誤
 (入營)ハ(現役)ノ誤
 (該)ノ下(各)ヲ脱ス
 (等)ハ(ル)ノ誤
 (照シ)ハ(依リ)ノ誤
 (付テ)ノ下(ハ)ヲ脱ス
 (父祖)ノ下(ノ)ヲ脱ス
 (六十歳)ノ下(以上)ヲ脱ス
 (又)ノ下(ハ)ヲ脱ス
 (第)ノ上(ハ)ヲ脱ス
 (戸主)ハ(之)ノ誤
 (但)ヲ贅ス ○其本行以下總テ前行ト並行スルヲ誤

五十四	四	(四月廿日)ハ(九日)ノ誤
五十九	九	(馬具工)ハ(職)ノ誤
六十一	九	(現役)ノ下(ニ)ヲ脱ス
六十三	四	現役ノ傍訓(ク)ハ(ゲン)ノ誤
六十六	六	(其第)以下五十四字ヲ削ル
六十七	九	(豫備)ノ下(徴員)ハ(後備兵役)ノ誤
六十八	一	(過キ)ノ下(ル)ヲハ(ザル)ノ誤
全	二	(以テ)以下九字ヲ贅ス
七十八	一	(届出)ハ(届書)ノ誤
八十八	六	(新舊)ハ(新令)ノ誤
八十九	八	(家校)ハ(學校)ノ誤
九十	二	(翌年廻シ)ハ(一ケ年限リ)ノ誤
九十四	四	(等)ノ下(ヲ)ヲ脱ス
九十五	五	(係ル)ハ(係リ)ノ誤
百八	六	(者)ハ(又)ノ誤

改正徴兵令註釋

市岡正一 著

第四拾六號

徴兵令別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

明治十六年十二月二十八日

太政大臣三條實美
陸軍卿大山巖
海軍卿川村純義

別冊

徴兵令

(註釋) 徴兵令トハ全國ノ人民ヲシテ陸軍及ヒ海軍ノ兵卒ニ徴集ス
ル法令ナリ

第一章 總則

〔註釋〕本章ハ全國ノ男子兵役ニ服スルノ年齢及ヒ服役ノ年限兵役ノ區別等總テ本令各條ニ關スル一般ノ法則ヲ掲グルモノトス

第一條 全國ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

〔註釋〕本令第七條ニ掲ゲタル重罪ノ刑ニ處セラレタルモノヲ除クノ外總テ全國ノ男子ニシテ滿十七歳ニ至リタル者ハ滿四十歳ニ至ル迄兵役ニ服スベキモノニシテ其兵役ノ種類年限等ハ逐條掲グル處ニ據リ之ヲ了スベシ而シテ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲシテ兵役ニ服セシメザルノ所以ハ第七條ニ於テ之ヲ説明ス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

〔註釋〕年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ間ニ於テ服役スベキ兵役ノ種類ハ陸軍海軍ノ別ナク共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役ノ三種ニ區別ス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齢滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

〔註釋〕常備兵トハ常ニ備ヘ置ク處ノ兵ノ總稱ニシテ其常備兵ニ服役スルモノヲ別テ現役ト豫備役ト二個トス而シテ常備兵役ノ年齢ハ通常滿二十歳ニ至リシ翌年ノ四月ニ起テ滿廿七歳ノ翌年ノ四月ニ終ル故ニ通常其年齢ハ滿二十一歳ヨリ滿二十七歳迄トシ其年限ハ七ヶ年トス但事故アリテ滿二十二歳以上ニ

シテ現役ニ服スル者ノ如キニ至テハ其年齢本文ノ限ニアラス
 現役トハ現ニ鎮臺營所或ハ艦船ニ屯在シ三ケ年間服役スルヲ
 云フ但技藝熟達等ノ故ヲ以テ年限(三ケ年)中ニ歸休ヲ命ゼラレ
 タル者ト雖モ其年限中ハ亦之ヲ現役ト爲ス

第七條第十七條第十八條第十九條第廿一條ニ當リ就役ヲ許サ
 ル者及ヒ徵集ヲ免除シ又ハ之ヲ猶豫スベキ者其他函館縣管
 下函館江刺福山ノ三ヶ所ヲ除キ北海道居住ノ人民並ニ沖繩縣
 管下ノ人民ノ外ハ假令勅任官タリトモ其身分ノ何タルヲ問ハ
 ズ凡ソ全國ノ男子ニシテ年齢滿二十一歳ニ至ルルハ皆抽籤ノ
 法ニ依リ徵集シテ以テ現役ニ服セシム
 現役ハ通常滿二十歳ニ至リシ年ノ翌年四月ヨリ滿廿四歳ノ年ノ
 四月迄滿三ケ年トシ其現役ヲ終ル者ヲ以テ豫備役ニ服セシム

豫備役トハ現役ノ豫備ニ役スルノ謂ニシテ其之ニ服役スルモ
 ノハ平常ハ郷里ニ在テ職業ヲ營ミ戰時若クハ事變ニ際スルカ
 又ハ復習點呼等ノ時ニアラザレハ召集スルヲナシ其服役ハ滿
 四個年ニシテ通常年齢滿廿四歳ニ至リ現役ヲ終リタル時ヨリ
 滿廿八歳ノ年ノ四月迄トス但其滿二十二歳以上ニシテ現役ニ
 服セシ者等ニ在テハ其年齢本文ノ限ニアラズ
 第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

〔註釋〕 後備兵役ノ者ハ復習點呼等ニ付召集ノ外ハ戰時若クハ
 事變ニ際シ豫備兵召集ノ後ニアラザレバ召集スルヲナシ故ニ
 平常ハ郷里ニ在テ職業ヲ營ム等豫備兵役ノ者ト同シ其服役年
 限ハ滿五ケ年ニシテ通常滿廿八歳ニ至リ豫備役ヲ終リタル時
 ヨリ滿三十三歳ノ年ノ四月迄トス但其廿二歳以上ニシテ現役

ニ服シタル者等ニ在テハ其年齢本文ノ限ニ在ラス

第五條 國民兵役ハ年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラザル者之ニ服ス

〔註釋〕 國民兵役トハ國民一般服役スル處ノ兵役ニシテ凡ソ日本

ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳ノ者ニ在テハ公權ヲ剝奪停

止セラレ或ハ兵役ニ堪ヘザル者ト常備後備ノ兩役ニ服スル者

ヲ除クノ外一般此役ニ服スベキモノトス

豫備後備役ノ者ニ在テハ毎年復習點呼ノ爲メ召集セラル、

アリト雖モ國民兵役ノ者ニ在テハ戰時若クハ事變ニ際シ後備

兵ヲ召集シタル後仍ホ兵員ヲ要スルキニアラザレバ決テ徵集

セザルモノトス故ニ平常ハ郷里ニ在テ職業ヲ營ミ敢テ兵役外

ノ者ト異ルヲナシ

第六條

各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

〔註釋〕 現役ハ服役三箇年豫備兵役ハ服役四箇年後備兵役ハ服役

五箇年ニシテ滿期トナリ國民兵役ハ年齢滿四十歳ヲ過グレハ

滿期トナルト雖モ其滿期ノ際ニ於テ戰時或ハ事變ニ當ルカ若

クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルカ若クハ航海中ナルカ或ハ

外國駐劄中ナル時ハ其期限ヲ延バスコトアルベキモノトス

本條ニ云フ各兵役トハ常備後備國民兵役ノ三役ヲ包含セシ

素ヨリナリト雖モ臨時演習或ハ觀兵ノ舉若クハ航海或ハ外國

駐劄等ニ依リ其期ヲ延パス等ノ件ニ至テハ專ラ現役ニ關スル

處最モ多クシテ他ノ兵役ニ在テハ稀ニ要用ナルモノトス

第七條

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

〔註釋〕

重罪ノ刑トハ徒刑流刑懲役禁獄ノ刑ヲ云フ此刑ニ處セラレタルモノハ其刑期中ハ勿論似令滿期放免ニナリタルモノト雖モ既ニ終身公權ヲ剝奪セラレタル者ニシテ日本人民タルノ權利ヲ失ヒタル者タレハ終身兵役ニ就クイヲ許サズルナリ但重罪ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ大赦若クハ救裁ニ依リ復權ヲ得タルモノニ在テハ本條ニ包含セサルモノトス

○第二章 服役

〔註釋〕

本章ハ現役及ビ豫備兵役後備兵役國民兵役等ノ服役ニ關スル諸件ヲ掲グルモノナリ

第八條

陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ビ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依

リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及ビ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ

〔註釋〕

現役ニ陸軍海軍ノ別アリ其陸軍ノ現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ抽籤ニ依リ其當籤者ヲ以テ現役兵ト爲ス但シ其抽籤ノ法ハ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ビ雜卒職工ノ七種ニ區別シテ之ヲ行フモノトス其法假令ヘハ一師管ニ步兵ヲ要スルキハ其師管内府縣ノ壯丁ノ數ニ應ジ之ヲ各府縣ニ配當シ又一軍管ニ於テ他ノ諸兵員ヲ要スルキハ其軍管管下ノ府縣ニ於ケル兵種ノ員數ニ應ジテ之ヲ配當シ以テ抽

鐵法ヲ施行シ其當籤者ヲシテ之ニ充ツ但抽籤ノ方法等ハ第二十六條ニ註スルヲ以テ之ヲ了スヘシ

陸軍現役兵ハ毎年之ヲ徵集スルト雖モ海軍現役兵ハ其所要ノ時ニ當リ之ヲ徵集スルモノニシテ其人員ハ沿海ノ地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤法ニ依リ當籤者ヲ以テ徵集スルヲ例ヘバ其人員中船乗ノ業ヲ爲シ水兵ニ適スル者ハ水兵ニ徵シ船具師船大工等ニテ職工ニ適スルモノハ職工ニ採ル等ノ類ヲ云フ但客年第三十八號布達海軍志願兵徵募規則ニ依リ海軍ノ兵役ニ就キタルモノハ本令服役ノ外タルベキモノトス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ

〔註釋〕 陸軍雜卒トハ看病卒輜重輸卒等ノ類ニシテ歩騎砲工輜重

兵等ノ兵卒ニアラザルモノヲ云フ其雜卒モ前條ニ掲グル如ク抽籤法ニ依リ當籤者ヲシテ現役ニ服セシムト雖モ服役ノ期限ハ其職務ニ因リテ三ケ年ヨリ短縮スルコトアルベシ而シテ其現役期限ノ短縮スルヲ以テ常備兵役ノ全期即チ滿七ケ年ノ期限ヲ減ズルコトナシ故ニ入營後七ケ年間ハ常備兵役服務ノ者トス

第十條 年齢二十歳ニ滿タズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

〔註釋〕 年齢二十歳未滿ニテハ丁年者ニアラズシテ幼年ト稱スベキモノタレバ二十歳未滿ノ者ハ國民兵役ノ外兵役ニ服セシムルコトナシト雖モ滿十七歳以上ニ至リシ者ハ陸軍海軍トモ現役

ヲ志願スルヲ得ベキモノトス

此特例ニ遵ヒ現役ヲ志願スルニ於テハ其年齢満十九歳ヲ過グレバ現役ヲ終ルヲ以テ隨テ常備後備ノ年限ヲ操上ゲ其期限ノ満ツルヲ早キヲ以テ若シ其業体ニ依リテハ父祖ノ職業ヲ助クル等ノ好都合ヲ得ルヲアルベキモノトス

第十一條 年齢満十七歳以上満二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校

小學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者

ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命ズルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ

〔註釋〕

官立學校トハ東京大學、大學豫備門、東京外國語學校、東京師範學校、駒場札幌農學校、工部大學校、司法省法學校等ノ如キ諸省

ニ於テ設置セシ直轄ノ學校ヲ云ヒ府縣立學校トハ府縣ニ於テ地方稅ヲ以テ設置セシ師範學校、中學校、專門學校等ノ類ヲ云フ其官

立學校、府縣立學校ニ於テ卒業ノ者ハ従前平時免役ニ屬セラレ

タリト雖モ本令ニ於テハ免役又ハ徵集猶豫ヲナスコトナシ然レ

モ其卒業證書ヲ所持スル者年齢満十七歳以上満廿七歳以下ニ

シテ自ラ食料被服等ノ諸入用ヲ辨へ服役ヲ志願スルキハ一個

年間陸軍現役ニ服サセ爾後現役ヲ免ゼラル但官立府縣立學校

タリモ小學校ノ卒業證書ヲ所持スルモノニテハ此處分ニ預カ

ルコトヲ得ズ

官立府縣立學校ノ小學校ノ卒業證書ヲ所持シ食料被服等ノ費用ヲ

自辨シ願ニ因リ現役ニ服セシモノノ服役年限ハ通常一ケ年ナリ

ト雖モ技藝ニ熟達スル者ハ一ケ年ニ滿タズ若干月ニシテ歸休

ヲ命セラレ出營歸郷シテ自宅ニ職業ヲ營ムコトヲ得ベシ但其備
 休ヲ命セラレ郷里ニ戻ルモ常備役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナ
 キヲ以テ其七ヶ年ノ間ハ常備兵役者タルコト勿論タルベシ
 第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ビ官立公立學校
 小學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未ダ終ラズト雖
 モ歸休ヲ命ズルコトアル可シ

〔註釋〕前條第二項ニ於テハ學校卒業證書ヲ所持シ自費服役ノ者
 技藝熟達ニ依リ歸休ヲ命ズルコトヲ掲ゲ本條ニ於テハ一般ノ現
 役者及ヒ官立公立學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ニ
 歸休ヲ命スルコトヲ掲載スルモノトス
 一般現役者ニシテ格別ニ技藝ニ熟シ身持宜シキ者ト官立公立
 學校ニテ步兵操練科卒業證書ヲ所持シテ現役ニ服セシ者ハ現

役期限(滿三年)ヲ終ラザルモ歸休ヲ命シ出營歸郷セシムルコト
 アルベシ而シテ官立學校トハ既ニ前ニ註釋スル處ノ學校ノ種
 類ニシテ公立學校トハ府縣及ヒ町村ニ於テ地方稅又ハ町村協
 議費ヲ以テ設置セシ學校ニテ府縣立町村立學校ノ總稱ナリ
 歸休ヲ命セラレ現役期限中歸郷セシメラレタルモノ常備兵役
 ノ全期ヲ減ゼザルコトハ前條ニ掲載アリ本條別ニ掲載ナシト雖
 モ亦前條ト同シク之ヲ減ズルコトアルベカラス

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實
 シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日
 以內之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備
 兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

〔註釋〕豫備兵ハ常備兵役中ノモノニシテ現役ヲ終リタルモノヲ

以テ之ニ服セシメ平常ハ復習點呼ノ外召集スルコトナク戰時若クハ事變ニ際シテハ之ヲ召集シテ常備隊ニ加ヘ或ハ補充隊トシテ別ニ隊伍ニ編制シテ役ヲ執ラシム

陸軍豫備兵ハ毎年一度技藝復習ノ爲メ召集シ又兵員實查ノ爲メ一度點呼ヲ爲ス其復習ニ付召集ノ日限ハ凡ソ六十日以内トス但海軍豫備兵ハ點呼召集ヲ爲スモ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

陸軍豫備兵復習點呼其他召集ニ付テハ明治八年陸軍省達第百十二號後備軍召集條例及ヒ明治十四年陸軍省達甲第七號後備軍司令部條例ヲ参照スベシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵

員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

〔註釋〕 後備兵ハ常備兵役滿期ノ者ヲ以テ之ニ服セシメ平常ハ復習點呼ノ外召集スルコトナク戰時若クハ事變ニ際シテ豫備兵ヲ召集シタル後之ヲ召集シテ常備兵ノ後援トナス其技藝復習ノ爲メ召集及兵員實查ノ爲メ點呼ニ付テハ前條註記スル所ト同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

〔註釋〕 國民兵ハ常備後備ノ兩役ニアラザル滿十七歳以上滿四十歳迄ノ男子ヲ以テ之ニ爲シ平常ハ郷里ニ在テ職業ヲ營ミ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シテ仍ホ兵員不足スルキニアラザレハ召集スルコトナシ故ニ後備兵召集シテ仍ホ兵員ヲ要ス

ルキニ限リテ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ服セシムルモ
ノタレハ平時ニ在テハ役外ノ者ト敢テ異ナルコトナシ

○第三章 免除及ビ猶豫

〔註釋〕 本章ハ兵役ヲ免除スル者ト徵集及ヒ召集ヲ猶豫スル
ト否トニ關スル諸件ヲ掲載スルモノナリ

第十六條 兵役ヲ免除スルハ痲疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ
照シ兵役ニ堪ヘザル者ニ限ル

〔註釋〕 兵役即チ常備後備國民兵役等ヲ免除セラルベキモノハ痲
疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ比照シ兵役ニ堪ヘザル者
ニ限ル故ニ仮令痲疾不具タリトモ兵役ニ堪フベキモノハ免除
セラル、ノ限ニアラズ但シ検査規則ハ追テ陸軍省ヨリ發行セ
ラルベキ者トス

第十七條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ

又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

〔註釋〕 本條ハ徵集ノ猶豫ヲ與フベキ者ノ項目ヲ掲グタルモノニ
シテ左ノ第一項ヨリ第五項ニ當ルモノハ徵集ヲ猶豫スト雖モ
若シ其徵集ニ應ズベキ年即チ年齢滿廿一歳ノ時補充員ニ不足
スルカ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル等ノ事アラバ
之ヲ徵集ス故ニ補充員不足ナク且戰時若クハ事變ニ際セズシ
テ其年徵集ノ命ナキ者ハ第二豫備徵員トナリ戰時若クハ事變
ニ際シ後備軍召集シ兵員ヲ要スルキニアラザレバ徵集スルコ
トナシ(第三十二條第三十三條見合)然レモ豫備徵員トナリ六ヶ年
間(廿七歳迄ノ間)ニ其名稱ヲ罷メタルモノハ現役トシテ更ニ徵
集セラルベシ

本條ニ云フ其年トハ適齡ノ年ノ翌年即チ滿廿一歳ノ年ノ四月ヨリ尙其翌年即チ滿廿二歳ノ年ノ四月迄ヲ云フ

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應ズル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

〔註釋〕

兄弟トモ同時ニ徵兵ニ應スベキ者アルキハ其兄カ又ハ弟ノ内何レカ一人ハ徵兵ヲ猶豫セラル
兄或ハ弟ノ内現役兵トナリ既ニ入營中ナルキハ其者ノ弟又ハ兄ノ内一人徵兵ヲ猶豫セラル

但其猶豫ニ付第二豫備徵員トナリタル者六ヶ年ノ内ニ其兄或ハ弟現役ヲ終リタルキハ現役トシテ徵集セラルベシ

第二項

現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免

役シタル者ノ兄或ハ弟一人

〔註釋〕

兄或ハ弟現役中死去シ又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ兵役ニ堪ヘサルニ依リ免役セラレタルキハ其弟或ハ兄ノ内一人ハ徵集猶豫セラル

但其猶豫ニ付弟又ハ兄負傷全癒スルカ疾病快復ニ趣キタルニ於テハ其兄又ハ弟ハ現役ニ徵集セラル

第三項

〔註釋〕

嗣子トハ跡繼ノ子ニシテ實子養子ヲ問ハス總テ跡繼ト定メタルモノヲ云ヒ承祖ノ孫トハ跡繼ノ孫ニテ嗣子死
去セシテ以テ其嗣子ノ總領ヲシテ直チニ祖父ノ跡繼ト定メタルモノヲ云フ但弟或ハ尊族ノ親等ヲ以テ跡繼ト定メタル相續人モ亦嗣子ノ部分ニ加フベキモノナランカ

其父^チ年^シ齡^シ滿^ル六十歲以上ニシテ戶主^{アレシ}タル者ノ嗣子^{アト、リコ}或ハ其祖^チ父^チ年^シ齡^シ滿^ル六十歲以上ニシテ戶主^{アレシ}タルモノ、承祖^{アト、リ}ノ孫^{ミコ}ハ徵^チ集^{コウ}猶豫^{ヨウ}セラルト雖モ年^シ齡^シ滿^ル六十歲未^ラ滿^ラノ戶主^{アレシ}ノ嗣子^{アト、リコ}及ヒ承祖^{アト、リ}ノ孫^{ミコ}ハ徵^チ集^{コウ}猶豫^{ヨウ}スルノ限^{カキリ}ニアラズ

年^シ齡^シ滿^ル六十歲以上ノ戶主^{アレシ}ノ嗣子^{アト、リコ}或ハ承祖^{アト、リ}ノ孫^{ミコ}ト雖^レ第二十^ニ條ノ第一^ニ項^ニ第二^ニ項^ニ第三^ニ項^ニ第四^ニ項^ニ第五^ニ項^ニニ當^ルルモノハ徵^チ集^{コウ}猶豫^{ヨウ}スルノ限^{カキリ}ニ在^ラズ

但其^レ猶豫^ニ付^テ第二^ニ豫備^ニ徵員^トナリタル者六ヶ年ノ間^ニ其^レ嗣子^{アト、リコ}或ハ承祖^{アト、リ}ノ孫^{ミコ}ノ名^ナ目^メヲ罷^ハメ(重罪^ノ刑^ニ處^セラレ或ハ癡疾^不具^等ニテ兵役^ニ堪^ヘザル者ノ外)タル者ハ更^ニ現^任役^ニ徵^集セラルヘシ

年^シ齡^シ五十歲以上ノ嗣子^{アト、リコ}承祖^{アト、リ}ノ孫^{ミコ}及ヒ獨子^{ヒトリコ}獨孫^{ヒトリミコ}等^ノ其^レ第^ニ廿^ニ二

條^ノ各^レ項^ニ當^ルルモノト雖^モ明治^{十六}年以前^ノ適^齡ニテ既^ニ舊^令ニ於^テ免^役ニ屬^シセシモノハ法^ノ既^往ニ及^ハザル原^則ニ據^リ其^レ名^稱ヲ變^換セザルニ於^テハ免^役ニ屬^ススベシト雖^モ明治^{十七}年以後^ノ適^齡ニ係^ルモノハ本^項ニ當^ル者ノ外^ハ仮^令獨^子獨^孫タリトモ免^役ハ勿^論徵^集猶豫^ノ限^ニア^ラズ

第四^項 戶^主癡^疾又ハ不^具等^ニシテ一家^ノ生^計ヲ營^ムコト能^ハザル者^ノ嗣^子或ハ承^祖ノ孫

〔註釋〕年^シ齡^シ六十歲未^ラ滿^ラノ戶主^{アレシ}タリトモ癡^疾又ハ不^具等^ニシテ一家^ノ生^計ヲ營^ムコト能^ハザル者^{ナル}ハ其^レ嗣^子或ハ承^祖ノ孫^ハ徵^集ヲ猶豫^セラル

但其^レ猶豫^ニ付^テ第二^ニ豫備^ニ徵員^トナリタル後^六ヶ年ノ間^ニ

於テ其戸主疾病回復シテ生計ヲ營ミ得ルニ至リシ者ハ更ニ現役ニ徵集セラルベシ
嗣子承祖ノ孫ニ於ケル解釋ハ前項ノ如シ

第五項 戸主

〔註釋〕 戸主ハ徵集猶豫ナル、ト雖モ第廿二條ノ第一項第四項第六項第七項第八項第九項ニ掲載セシ處ノ戸主ニ在テハ徵集猶豫ノ限ニアラズ

但戸主タルノ故ヲ以テ徵集猶豫セラレ第二豫備徵員トナリタル後六ケ年間ニ其戸主ヲ罷メタルモノハ更ニ現役ニ徵集セラルベシ

其明治十六年適齡ニシテ戸主ノ故ヲ以テ舊令ニ於テ既ニ免役ニ屬シタル者ハ第廿二條ノ各項ニ當ルト雖モ其資格

ヲ失ハザルトキハ爾後徵集セラレモ明治十七年以後適齡ノ者ニシテ該項ニ該當セル戸主ナルキハ免役ハ勿論猶豫ヲモ爲サザルモノトス

第十八條

左ニ掲グル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

〔註釋〕

本條ハ事故存在中徵集猶豫ノ項目ヲ掲グルモノニシテ即チ第一項ヨリ第九項ニ至ル事故ノ存スルモノハ其事故存在中

徵集ヲ猶豫ス故ニ其事故解決ケタルキハ徵集セラル、モノトス但本條各項ニ當リ其事故ノ存スルヲ以テ七ケ年間徵集猶豫

セラレタルモノハ第二豫備徵員ト爲シ現役ニ服スルナシ

第一項 教正ノ職ニ在ル者

〔註釋〕 教導職權少教正以上ニ補セラレ在職中ノ者ハ其職ニ

アル間徵集ヲ猶豫セラルト雖モ徵集猶豫ノ後七ケ年間

ニ於テ其職ヲ失ヒシモノハ更ニ現役ニ徵集セララルヘシ
第二項 官立府縣立學校クワンリフケンリツ小學校コウガクノ卒業證書ソツグクシヨウシヨヲ所持スル者ニシテ

官立公立學校クワンリツリツ教員ケウインタル者

〔註釋〕官立府縣立及ヒ公立學校ノ區別ニ付テハ前ニ註釋ス
ル者アルヲ以テ再ビ茲ニ註セス

其官立府縣立學校クワンリフケンリツ小學校コウガクノ卒業證書ソツグクシヨウシヨヲ所持シテ官立公立
小學校コウガク學校ノ教員ケウインノ職シヨクヲ奉スルモノハ徵集猶豫チヨウエイウヨセラルト
トモ 雖モ官立府縣立學校ノ卒業證書ソツグクシヨウシヨヲ所持シ教員ノ職ニアル
モ私立學校シリツリツノ教員ケウインニ在テハ徵集猶豫チヨウエイウヨセザルベシ

但徵集猶豫ノ後七ケ年ノ間ニ其職シヨクヲ失ヒタルモノハ更
ニ現役ニ徵集セララル

其官省使廳クワンシヤウシヤウノ直轄學校チキヤク及ヒ府縣立中學校チフケンリツ專門學校トウモン師範學

校等ノ卒業者ソツグクシヤウタルヲ以テ明治十六年以前適齡ニテ舊令マヘンキョウニ
於テ既ニ平時免役ヘイジツメンニクニ属シタルモノハ公立學校ノ教員ケウインニア
ラサルモ平時ヘイジツニ在テハ徵集スルコトアルマシト雖モ明治十
七年以後適齡ノ者ハ公立學校ノ教員ケウインニアラザレバ徵集猶
豫セララル、ノ限ニアラサルヘシ

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準ズル官立學校クワンリツ本科生徒ホンカクシヤウ

〔註釋〕官立大學校生徒クワンリツトハ東京大學、工部大學校ノ生徒シヤウヲ云
フ、陸軍大學校生徒ハ第四項ニ含蓄フクムス而シテ之ニ準ズル官
立學校トハ未ダ其何レナルヲ知ラズト雖モ恐ラクハ農商
務省所轄シヤウ駒場農學校コマバノウガク札幌農學校サッポロノウガク等ノ類ナルベシ蓋シ其準
ズベキ學校ニ付テハ布達等フタツヲ以テ明カニ其校名カウマイヲ告示コウシセ
ラルベキモノトス

其官立大學校及ビ準大學校ノ本科生徒ハ修業課程ノ年限ヲ問ハズ總テ徵集猶豫セラルベシト雖モ豫科生徒ニ在テハ本項ニ據リ猶豫ヲ與ヘラル、イナシ故ニ豫科生徒ハ現役ニ徵集セラル、モノトス然レモ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタルモノハ第十九條ニ因リ徵集テ猶豫セラルベシ其官立大學校及ビ準大學校ノ本科生徒ニシテ二ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ第三十一條ニ據リ年齢二十七歳迄第一豫備徵員トセラル、ヲ以テ適齡以前既ニ其課程ヲ卒リタル者ハ本項ニ據ラズシテ直チニ第三十一條ニ準據スベシト雖モ適齡ノ際未ダ二ケ年以上ノ課程ヲ卒ラザルモノハ本項ニ依リ徵集猶豫ノ後其二ケ年ヲ卒リテ更ニ第一豫備徵員ニセラルベキモノトス

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

〔註釋〕 陸海軍諸學校等ノ生徒及ヒ職工等ハ徵集ヲ猶豫セラ

ルト雖モ其適齡ノ後七ケ年ノ間ニ於テ退校シ或ハ役ヲ罷

メタルモノハ現役ニ徵集セラルヘシ

第五項 身幹未ダ定尺ニ滿タザル者

〔註釋〕 兵員ヲ採ルニ身幹ノ定尺アリ其定尺ニ滿タザルモノ

ハ徵集猶豫セラル、ト雖モ猶豫ノ後七ケ年ノ間ニ於テ定

尺ニ滿ルモハ更ニ現役ニ徵集セラルヘキモノトス

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘザル者

〔註釋〕 疾病中ノ者或ハ病後ニテ勞役ニ堪ヘザル者ハ徵集チ

猶豫セラル、ト雖ヒ其猶豫ノ後七ケ年ノ間ニ於テ疾病回復シ勞役ニ堪ユベキ者トナリタルキハ更ニ現役ニ徵集セラルベシ

第七項

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

〔註釋〕 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留シ内地ニ在ラザル者ハ徵

集猶豫セラル、ト雖ヒ若シ其者猶豫後七ケ年ノ間ニ歸朝セシキハ更ニ現役ニ徵集セラルヘシ

但明治十六年以前適齡ノ者外國ニ留學シ二ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル故チ以テ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシモノハ明治十七年以降ト雖ヒ徵集スルコトアルマシ然レモ明治十七年以後ノ適齡者ニ在テ

ハ此限ニアラザルモノトス

第八項

禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

〔註釋〕

罰金拘留科料等ノ刑ニ該ルベキ被告人ハ假令訊問中

ニテ判決未タ終ラザルト雖ヒ之ヲ徵集セシムト雖ヒ禁錮以上ニ該ルベキ被告人訊問中ニ在テ其裁判未タ決セザル間ハ徵集チ猶豫セラル而シテ其裁判徵集猶豫ノ後七ケ年ノ間ニ執行セラレ仍テ放免トナリタルモノハ更ニ現役ニ徵集セラレ又禁錮ノ刑ニ處セラレタルキハ第九項ニ據リ處分セラレ重罪ノ刑ニ處セラレタルキハ終ニ兵役ニ就クコトヲ許ササルモノトス

第九項

公權停止中ノ者

〔註釋〕 公權ヲ剝奪セラレタルモノハ第七條ニ據ルベシト雖

凡禁錮ノ刑ニ該リ其刑期中或ハ其刑期満ツルモ監視ニ附
セラレ公權ヲ行フニテ停止サレタルモノハ其停止中徵集
ヲ猶豫セラレ猶豫後七ケ年ノ間ニ其停止ヲ解カレタルモ
ハ更ニ現役ニ徵集セララルヘシ

但明治十六年以前適齡ノ者禁錮懲役禁獄一年以上ニ處
セラレタルヲ以テ舊令ニ於テ既ニ除役セラレタルモノ
ハ公權停止中ニアラザルモ徵集スルコトアルマシト雖モ
明治十七年以降ニ在テハ本文ノ如ク公權停止ヲ解カレ
タル上ハ徵集セララル、モノトス

第十九條 官立府縣立學校小學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒
リタル生徒ハ六個年以内徵集テ猶豫ス

〔註釋〕官立府立學校ノ說明ハ既ニ前條ニ掲グルヲ以テ今茲ニ再

註ヲ要セズト雖モ本條云フ所ノ官立學校ハ第十八條第三項ニ
掲グル官立大學校モ亦包含スルモノトス故ニ大學校及ヒ進大
學校豫科生徒ニシテ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタルモノハ
本條ニ因リ徵集ヲ猶豫スベシ

官立府縣立學校小學校ニ於テ修業中ナル生徒ニシテ一ケ年以
上ノ課程ヲ卒リタルモノハ六ケ年以内徵集ヲ猶豫セララル但本
條ニ於テ猶豫ヲ與フルモノハ官立府縣立學校ノ修業者ニシテ
一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタルヲ以テノ故ナルニ依リ仮令修業
年數二ケ年以上タリトモ毎年試験ニ落第シテ未ダ一ケ年以上
ノ課程ヲ卒ラザル者及ヒ其一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタルモノ
ト雖モ他學校私立學校或ハ官立公立小學校ノ修業者ニシテ未
タ其官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ一ケ年以上ノ修業ヲ

爲サマリシモノハ徵集猶豫ヲ爲サマルモノトス
但其猶豫六ヶ年ノ間ニ退學セシモノハ勿論現役ニ徵集セラ
ルヘシ

第二十條 左ニ掲グル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトナ問ハズ
復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太
政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

〔註釋〕 豫備兵後備兵ハ毎年一度ツ、技藝復習及ヒ兵員實查ノ爲
メ召集點呼スルノ例ナリト雖モ左ノ各項ニ掲グル者ハ豫備兵
ニ在ルト後備兵ニ在ルトナ問ハズ復習點呼ノ爲メ召集セラル
、コナシ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル場合ニ於テハ
太政官ノ決裁ヲ經タル上ニテ召集スルコトアルベシ故ニ戰時若
クハ事變ノ時タリトモ他ノ兵員ノ如ク漫ニ召集セラル、コナ

シ

第一項 官吏判任及ヒ兵長

〔註釋〕 本項ハ官吏判任及ヒ兵長トアルヲ以テ考フレバ等外
吏ハ勿論准官吏ト雖モ兵長ノ外ハ本項ニ包含セサルモノ
トス

但明治十六年以前ノ適齡者ニシテ官吏判任兵長タルノ
故ヲ以テ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ属セシモノハ明治
十七年以降ト雖モ其職ヲ繼續スルモハ徵集セラル、コ
アルマシ然レモ十七年以降適齡者ニ在テハ止メ本條ニ
因リ豫備後備兵役中ノ復習點呼等ノ召集ヲ免カル、ノ
ミニニシテ現役徵集ヲ免カル、コナシ
第二項 教導職試補除ク

〔註釋〕 教導職トハ權訓導以上ノ者ヲ云フ其教正以上ニ在ル者ト雖^モ 第十八條ノ第三項ニ該當スル者ノ外ハ本項ニ包含ス

但教導職試補以上ノ者明治十六年以前適齡ニシテ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシ者ハ明治十七年以後ト雖^モ 其職ヲ失ハサルニ於テハ免役ニ屬スベシ然レ^モ 明治十七年以後適齡ノ者ハ之カ爲メ徵集ヲ免カル、コトナシ

第三項 官立公立學校教員

〔註釋〕 官立公立學校ノ區別ニ付テハ既ニ前ニ釋註スル處アルヲ以テ再ヒ茲ニ之ヲ贅セス
官立公立學校ノ教員トハ官立及ヒ府縣立等ノ卒業證書ヲ

有スル者ト否トチ問ハズ都テ其教員ノ職ヲ奉スルモノヲ云フ

但明治十六年以前ノ適齡ニシテ官立公立學校ノ教員タルヲ以テ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシ者ハ明治十七年以後ト雖^モ 其職ヲ失ハザル間ハ之ヲ徵集スルコトアルマシ然レ^モ 明治十七年以後ノ適齡者ニ在テハ其徵集ハ之ヲ免カル、コトナシ

第四項 府縣會議員

〔註釋〕 府縣會議長副議長モ亦之ニ包含ス

但明治十六年以前適齡ニシテ府縣會議長副議長議員タルノ故ヲ以テ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシ者ハ明治十七年以後ト雖^モ 其職ニ在ル間ハ之ヲ徵集スルコトナ

ルマシ然レモ明治十七年以後ノ適齡者ニ在テハ之ガ爲
メ徵集ヲ免カル、トナシ

第五項

官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

〔註釋〕官立府縣立醫學校卒業證書ヲ所持セズ止マニ開業免

狀ノミヲ所持シテ醫術開業ノ者ハ本項ニ包含セス

但明治十六年以前適齡ニシテ醫術開業免狀ヲ所持スル
ノ故ヲ以テ舊令ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシモノハ其
資格ヲ失ハサルニ於テハ明治十七年以後ト雖モ免役ニ
屬スベシ然レモ明治十七年以後適齡ノ者ハ之カ爲メ免
役ニ屬スルコトナク殊ニ官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ
所持セズ止マ開業免狀ノミヲ所持スルカ如キハ豫備後
備役中復習點呼ノ爲メ召集ヲ免セラル、トナモ得ベカ

ラザルモノトス

第廿一條

官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラザル技術ノ職

ヲ奉ズル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

〔註釋〕官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フベカラザル技術ノ職

ヲ奉ズル者ニ限り太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫セラル、ト

アリ故ニ尋常ノ事務官ニ在テハ仮令如何ナル職ヲ奉スル者ト

雖モ決テ徵集猶豫ノ途ナキモノトス

但明治十六年以前適齡ニシテ准官吏御用掛御雇等餘人ヲ以
テ代フベカラザル事務ヲ奉ズル者太政官ノ決裁ニ依リ舊令
ニ於テ既ニ平時免役ニ屬セシモノハ明治十七年以後ト雖モ
其職ヲ繼續スルニ於テハ徵集スルコトナシ然レモ明治十七年
以降ノ適齡者ニ在テハ止タニ技術ノ職ヲ奉スルモノ、ミニ

限リ決裁ヲ經テ徵集猶豫シ其他ノ者ニ在テハ徵集ヲ猶豫セラル等ノ途ナキモノトス

第廿二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

〔註釋〕 既ニ第十七條ニ於テ戸主嗣子承祖ノ孫ノ徵集猶豫ノコトヲ掲載セリ然レモ左ノ項目ニ掲グル處ノ戸主及ヒ嗣子承祖ノ孫ナルキハ徵集猶豫ノ處分ヲ受クルコトヲ得ザルモノトス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

〔註釋〕 附籍ノ戸主ハ一家ヲ獨立スルコト能ハズ他人ニ依リテ以テ家名ヲ存スル者ナルヲ以テ仮令前戸主又ハ其戸主タル父祖年齢滿六十歳以上ナルモ其戸主又ハ嗣子承祖ノ孫ニ於ケル第十七條ニ照ラシ徵集猶豫スルコトナシ

但明治十六年以前適齡者ニシテ附籍ノ戸主トナリタルノ故ヲ以テ舊令ニ照シ既ニ免役ニ屬セシモノハ其資格ヲ失ハザルニ於テハ爾後徵集ヲ免カルト雖モ明治十七年以後適齡ノ者ハ之ヲ免役シ又ハ徵集猶豫ヲ與フルコトナシ

第二項 痲疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

〔註釋〕 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人タルベキ者痲疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルカ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ之ヲ廢シ更ニ定メタル年齢滿六十歳以上ノ戸主ノ嗣子及ヒ承祖ノ孫ハ第十七條第三項ニ因リ徵

集ヲ猶豫セラルト雖^レ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナク
 且癡疾又ハ不具ナルト否トテ問ハズ一家ノ生計ヲ營ミ得
 ル嗣子及ビ承祖ノ孫又ハ相續人ヲ廢シテ更ニ定メタル嗣
 子承祖ノ孫ハ假令其戸主タル者年齢滿六十歲以上タリト
 モ徵集ヲ猶豫スルコトナシ
 本項ノ明文ニ依レバ事故ナキ嗣子承祖ノ孫等ヲ廢シテ更
 ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ其戸主滿六十歲以上ナルモ徵
 集猶豫ヲ爲ササルコトノミヲ示シ其廢嫡者ト更ニ後嗣
 ト定メタル子孫ノ年齢如何ニ關セザル者ノ如シト雖^レ猶
 其精神ニ付テ考フルニ其年齢滿廿七歲ヲ過ギタル嗣子承
 祖ノ孫等ヲ廢シ適齡以前ノ者廿歲以下ヲ以テ更ニ定メタ
 ルトハ勿論徵集猶豫ヲ與フベカラザルト云フトモ若シ適

齡已前ノ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人ヲ廢シテ更ニ定メタル
 其ハ其定メタル者ノ適齡ノ前後ニ關セズ第十七條第三項
 ニ該當セシムベキモノナラシム乎但是等ニ付テ當路者ニ質
 シテ其如何ヲ了スベシ

第三項 年齢六十歲未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生
 計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ
 非ズシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歲以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタ
 ル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

〔註釋〕 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル
 カ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ故ヲ以テ年齢滿六十
 歲ニ滿ザル戸主ヲ廢シテ年齢滿六十歲以上ノ者ニテ其家
 ヲ相續セシ者(戸主)ノ嗣子及ヒ承祖ノ孫ハ第十七條第三項

ニ據リ徵集猶豫セラルベシト雖モ若シ是等ノ事故アルニ
アラズシテ滿六十歳未滿ノ戸主ヲ廢シ其跡ヲ繼ギタル者
ノ嗣子承祖ノ孫ハ其戸主タル父祖年齢仮令滿六十歳以上
ナルモ徵集猶豫スルコトナシ

第四項

分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸
主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

〔註釋〕

徵兵年齢已前ニ於テ分家ヲ爲シ又ハ絶家及ヒ廢家ヲ
再興シテ一家ノ戸主トナル者ハ戸主タリトモ徵集シ其嗣
子承祖ノ孫モ亦徵集ニ應ズベシト雖モ若シ其分家及ヒ絶
家廢家ノ再興タル明治十二年十月廿六日即チ前改正徵兵
令發行前ニ係ルモノハ法ノ既往ニ及バザル原則ニ依リ尋
常ノ戸主又ハ嗣子及ヒ承祖ノ孫ヲ以テ處分セラルベキニ

付其戸主又ハ嗣子及ヒ承祖ノ孫等父祖ナキカ又ハ有之モ
年齢滿六十歳ナルキハ第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ
徵集ヲ猶豫セラルベシ但シ適齡已前ニ分家又ハ絶家等ヲ
再興シタル戸主ニ在テハ素ヨリ本項前段ニ該當シ又嗣子
承祖ノ孫ヲ有スルモノ其子孫ノ適齡以前ニ分家又ハ絶家
等ヲ再興セヌモノモ又ハ本項ニ據ルベシト雖モ若シ其分
家又ハ絶家再興以後ニ出生シタル處ノ嗣子及ヒ承祖ノ
孫ニシテ其父祖タル戸主既ニ年齢滿六十歳以上ニ至リシ
者ハ其嗣子承祖ノ孫ヲシテ徵集ヲ規避セシムル情ニ出タル
モノニアラサルコト判然タレハ勿論第十七條第三項ニ該當セ
シメ可ナランモノト考フ是等ニ於テハ當路者ニ質シ以テ
當否ヲ了スベシ

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

〔註釋〕 嗣子承祖ノ孫失踪シ五個年ヲ經ルモ歸郷セサルヲ以テ之ヲ廢シ更ニ其跡ニ定メタル處ノ嗣子承祖ノ孫ニシテ其父祖タル戸主年齢滿六十歳以上ナルハ徵集ヲ猶豫セラルベシト雖モ其失踪後五ヶ年未滿ニ定メタルモ若クハ其五ヶ年ヲ經タルモ其戸主未ダ滿六十歳未滿ナルハ徵集ニ應ズベシ

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ズシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註釋〕 癡疾不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルカ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル故ヲ以テ年齢滿六十歳未滿ノ者戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル處ノ戸主タル嗣子承祖ノ孫即チ第二代目ノ戸主ニ於テハ假令癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハズ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ事故ナクシテ既ニ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル處ノ者タリトモ第十七條第五項ニ照ラシ徵集猶豫セラルベシト雖モ若シ其戸主タル者是等ノ事故アルニ非ズシテ戸主ヲ罷メ又是等ノ事故ナクシテ既ニ定メタル處ノ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ニ於テ其跡ヲ繼ギタル戸主ハ徵集猶豫ノ限ニ在ラズ戸主年齢滿六十歳未滿ナリトモ癡疾不具等ニテ一家ノ生

計ヲ營ムコト能ハザルカ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ
 事故ニ因リ戸主ヲ罷メ滿六十歳以上ニテ其跡ヲ繼テ第二
 代ノ戸主トナリタル者ノ嗣子承祖ノ孫ニシテ又其戸主(父
 祖)ノ跡ヲ繼ギ第三代ノ戸主トナリタルモノハ其前戸主第
 二代ノ戸主(前文ニ記スル處ノ事故)ノ有無ニ關セス徵集ヲ
 猶豫セラルベシト雖モ若シ滿六十歳未滿ニシテ廢疾不具
 等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニアラス又ハ重罪
 ノ刑ニ處セラレタルニモアラザル戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キ
 タル第二代ノ戸主ノ嗣子承祖ノ孫又其跡ヲ繼キテ第三代
 ノ戸主トナリタル者ハ前戸主(二代目)飯令滿六十歳以上タ
 リトモ廢疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル
 カ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ事故アルモノニアラ

ザレバ徵集猶豫スルコトナシ
 分家又ハ絶家廢家ヲ再興シタル戸主ノ嗣子承祖ノ孫ニシ
 テ其跡ヲ繼タル戸主ハ前戸主飯令滿六十歳以上タリトモ
 廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルカ又
 ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ事故アリテ戸主ヲ罷メタ
 ルモノニアラザレハ徵集猶豫スルコトナシ但其分家及絶廢
 家ノ再興タル明治十二年十月廿六日以前ニ係ル者及ヒ其
 嗣子承祖ノ孫タル者出生以前ニ分家シ又ハ再興シタルモ
 ノニ係ルモノニ付テハ第四項ニ論記セシ處アルヲ以テ參
 照スベシ

第七項 年齢六十歳未滿ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計
 ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非

ズシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註釋〕癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル
カ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル等ノ事故アリテ罷メタル
戸主ノ跡ヲ繼ギタル戸主ハ前戸主滿六十歳未滿ナルモ第
十七條第五項ニ據リ徵集ヲ猶豫セラルベシト雖是等ノ
事故アルニアラズシテ罷メタル滿六十歳未滿ノ戸主ノ跡
ヲ繼ギタル二代ノ戸主ハ徵集セラルベシ

第八項

嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ
生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ズ或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル
ニ非ズシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガス他
ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註釋〕嗣子承祖ノ孫又ハ相續人等癡疾又ハ不具等ニシテ一

家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルカ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ
タル等ノ事故ニ依リ戸主ヲ廢シ更ニ他人ヲ以テ戸主ノ死
跡或ハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ相續シタル戸主ハ第十七條第
五項ニ因リ徵集猶豫セラルベシト雖是等ノ事故アルニ
アラズシテ嗣子承祖ノ孫或ハ相續人ヲ廢シ他人ヲ以テ死
跡或ハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ギタル戸主ハ徵集猶豫セザ
ルモノトス

但シ本項ニ於テ罷メタル處ノ戸主トハ年齢滿六十歳以
上モ勿論包含スルモノトス

第九項

戸主失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ヲ繼ギタル戸主
〔註釋〕戸主失踪シテ五個年ヲ經タル後其跡ヲ相續シテ戸主
トナリタルモノハ第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫スベシ

ト雖^レ若^シ五ヶ年ヲ經^レザル^レ己^レ前^ニ其^ノ跡^ヲ繼^ギ戸主トナリ
 タル者ハ徵集猶豫ノ限^リニアラス
 但本項ニ付テハ注意スベキモノアリ何^レヤ戸主失踪跡
 チシテ其家名ヲ斷^ツト否^トニ依^リ其處分大ニ異ナル處
 アリトス若^シ戸主失踪シテ後^ニ五ヶ年前後ニ於^テ戸主ナ
 キチ以^テ絶家廢家ノ處分ヲナセシキハ其跡ヲ繼^ギタル
 戸主ハ仮令^{五ヶ年ヲ經}タルモ家名再興ノ姿トナルベキ
 ナ以^テ本條第四項ノ處分ヲ受クベク而^{シテ}其失踪五ヶ
 年ヲ過^ギタル後^ト雖^レ戸籍上絶家廢家ノ處分ヲ爲^サバ
 ルニ於^テハ其家ヲ繼^ギタルモノハ家名相續ニシテ絶家
 廢家ノ再興ニアラザレハ本項ノ處分ニ屬スベキヲ勿論
 ナリトス

但失踪者ノ除籍ハ其年齡八十歳以上ヲ以^テ其處分ヲ
 爲^スベキヲハ既^ニ明治六年五月第百七十七號布告ニ
 掲載アリ故ニ若^シ單身ニシテ年齡滿八十歳以上ノモ
 ノハ勿論七十六歳以上ノ者ニ在^テハ五ヶ年ヲ待^タス
 シテ戸籍上其家名ヲ絶スルモノ、如^シ然ル時ハ本項
 ノ處分ニ於^テ疑義ナキ能^ハス是等ハ前以^テ其筋ノ指
 揮ヲ仰^キ置^ベキヲ緊要ナリ

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒第十九條

第二十一條ニ當^ル者ト雖^レ第三十五條ニ示^シタル徵兵各自届出期
 限即^チ九月十六日以後ニ係^ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限^ニ在^ラス

〔註釋〕第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除^ク第
 十九條第廿一條ニ當^リ徵集猶豫セラレベキモノハ適齡以前即

十滿廿歲ニナル年ノ九月十五日前ニ於テ其資格ヲ得及ビ事故
 ヲ生シタルモノニシテ九月十六日以後ニ於テ其資格ヲ得或ハ
 事故ヲ生シタルモノハ徵集猶豫スルコトナシ
 凡ソ徵兵ノ調査ハ九月十六日ヨリ始メテ翌年四月廿日ニ終ハ
 ルモノタレバ既ニ徵集猶豫等ニ當ルモノ其調査ノ期限内ニ異
 動ヲ生シ其資格ヲ失ヒ或ハ事故解ケタルキハ再ビ其資格ヲ得
 又ハ事故ヲ生ズルモ徵集ニ應ゼシムベシト雖モ若シ四月十日
 以後九月十五日己前ニ於テ異動ヲ生シ其資格ヲ失ヒ又ハ事故
 解タル者更ニ其期限内ニ於テ再ビ其資格ヲ得又ハ事故生シタ
 ルキハ繼續シテ徵集猶豫セラルベキモノトス
 但從前ノ例ニ依レバ九月十六日以後徵兵使巡行迄ニ罷名稱
 トナリタルモノハ再ビ免役ノ名稱ヲ得ルモ免役ニ屬セス若

シ徵兵使巡行以後九月十五日迄ノ間ニ在テ其名稱ヲ罷メ再
 ビ免役ノ名稱ヲ得タル者ハ免役ニ屬セシニ依リ改正ノ令ニ
 於ケルモ亦之ヲ履行スベキカ若シ然ルキハ本文四月十日ハ
 徵兵使巡行以後ト爲スベシ蓋シ其四月十日ト記セシモノハ
 第三十六條ニ據リタルモノナリトス

○第四章 徵兵區及ヒ抽籤

「註釋」 本章ハ徵兵ノ區域及ヒ抽籤ノ法則等ヲ掲クルモノナ
 リ

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フ
 セノチ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノチ師管徵兵區ト爲シ府縣
 ニ從フモノチ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモ
 ノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲グ

〔註釋〕兵ヲ徵スルニ付區域ヲ定ム之ヲ徵兵區ト云フ徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ三區ニ別チ其軍管ニ徵スルハ軍管徵兵區ヨリシ師管ニ徵スルモノハ師管徵兵區ヨリ徵ス而シテ府縣徵兵區ハ兵ヲ徵スル地方ノ區畫ニシテ其一府縣ニシテ兩師管ニ跨ルモノハ分割シテ二箇ノ府縣徵兵區トナス

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル步兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ步兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

〔註釋〕各鎮臺ニ屬スル步兵ヲ徵集スルニハ其師管徵兵區限リ之

ヲ徵集スル故ニ例ヘバ第一鎮臺ニ五百人ノ步兵ヲ徵スルニ内二百人ハ第一師管ニ徵シ三百人ハ第二師管ニ徵スベキトキハ二百人ハ第一師管徵兵區ヨリ徵シ三百人ハ第二師管徵兵區ヨリ徵スト雖ヒ其他工兵騎兵砲兵輜重兵等ニ至テハ其軍管徵兵區ヨリ之ヲ徵スル故ニ第一軍管即チ東京鎮臺ニ於テ百人ヲ徵スルニ内六十人ハ第一師管四十人ハ第二師管ニ徵スヘシト雖ヒ其全員ハ壯丁ノ數ニ應シ即チ第一軍管徵兵區ニ配當シテ之ヲ徵ス其現役徵員及ヒ補充員ニ不足スルトキト雖ヒ亦前ノ例ニ依リ步兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ徵ス其法例ヘハ東京鎮臺中第二師管ニ步兵ノ不足ヲ生ズルハ第二軍管ノ第一師管等徵兵區ヨリ之ヲ徵シ又東京鎮臺中第一第二師管ハ兩師管ノ内ニテ他ノ諸兵ニ不足ヲ生ズルハ

師管ノ何レヲ問ハス他ノ軍管即チ第二軍管等ノ徵兵全區ヨリ
 之ヲ徵スルカ如シ
 海軍及ビ近衛ノ諸兵ヲ徵集スルニハ各軍管ニ其員數ヲ配當シ
 テ全國ヨリ徵集スルモノニシテ其法例ハ近衛兵六十人ヲ徵
 集スルキハ十八人ツ、六鎮臺ノ管區ニ分賦シテ徵集スルガ如シ
 但シ其配當ハ壯丁等ノ員數ニ應ズベキモノトス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適ス可
 キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番号ヲ定メ抽籤セシム
 (註釋) 凡ソ兵ヲ徵集スルニハ適齡ニシテ其合格ナル者ヲ集メ抽
 籤ヲ以テ其要スル兵員ヲ徵集ス其抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之
 ヲ施行スルモノトス

壯丁トハ適齡者ニシテ事故ナキモノヲ云フ其壯丁ノ身體檢査
 終リタル後兵ニ適スベキ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ニ區別ス
 ルコト例ハ身幹五尺四寸以上ニシテ体格最モ健全視力清明
 ナル者ハ之ヲ砲兵ニ撰ミ若シ其者機關工彫刻工時計匠等ノ如
 キ職業ニ從事セシ者ハ近視症ヲ發スルノ患アルヲ以テ之ヲ除
 キ其身幹五尺三寸以上ニシテ居定馬匹ヲ使用スルニ慣レタル
 モノハ之ヲ騎兵ニ撰ミ其居定馬匹ヲ使用スルニ慣レ且讀書算
 術ヲ爲シ得ルモノハ輜重兵ニ撰ミ其身幹五尺三寸以上ニシテ
 木工石工船工車工靴工桶工泥工馬具工屋根職等ノ匠工等ノ職
 ヲ爲スモノハ之ヲ工兵ニ撰ミ體幹ノ尺度短ニシテ且少シク疾
 患アルモ讀書算術ヲ爲シ得ルモノハ看病卒ニ撰ミ職業技能ナ
 キモ身幹五尺以上ナルモノハ歩兵ニ撰ムガ如ク其身幹職業等

ニ依リ兵種ヲ區別シ番号ヲ定メ抽籤セシム
 第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰チ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

〔註釋〕 籤丁トハ檢査ノ上合格ニシテ抽籤セシムル處ノ壯丁ヲ云フ

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番号ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ而前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉グル所ノ番号ヲ高聲ニ呼バシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番号ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

〔註釋〕 籤丁名簿トハ抽籤者ノ名前帳ナリ

第二十九條 籤ハ其番号現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ

其餘ヲ以テ補充籤トス

〔註釋〕 籤丁ヲシテ抽カシムル處ノ籤ハ現役籤ト補充籤ノ二種ニ區別シ現役籤トハ現ニ徵集スル處ノ兵員ヲ定ムル籤ニシテ其籤ヲ抽キ當テタルモノハ之ヲ現役兵トス又補充籤ハ現役兵ニ不足ヲ生ズルトキ其欠員ヲ補フ爲メ徵集スベキ處ノ兵員ヲ定ムル籤ニシテ其籤ヲ抽キ當タルモノハ之ヲ補充員ト爲シ現役兵ニ不足ヲ生ジタル兵補欠トシテ徵集スベキモノトス而シテ其籤タル例ハ籤丁五百人アル兵ハ五百番迄ノ籤ヲ製シ而シテ其内現役徵集スルモノ二百人ナル兵ハ第一番ヨリ二百番迄ハ現役籤トシ之ヲ抽キタルモノヲ現役徵員トナシ二百壹番ヨリ五百番迄ハ補充籤トシ之ヲ抽キタルモノハ補充員ト爲ス

○第五章 補充員及ヒ豫備徵員

〔註釋〕 本章ハ補充員及ヒ豫備徴員ニ關スル諸件ヲ漏載スル
 モノニシテ補充員トハ現役徴員ノ補欠ヲ充テル爲メニ備
 フル處ノ兵員ニシテ其員ハ籤丁中現役當籤外即チ補充籤
 チ抽キタルモノヨリ之ニ充テ豫備徴員トハ常備兵役及ビ
 後備兵役ノ豫備トシテ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要ス
 ルハ徴集スル爲メノ兵員ニシテ其員ハ第三十一條第三十
 二條ニ記載スル者ヲシテ之ニ充テル

第三十條 補充員ハ補充籤チ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其
 期限内現役兵員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要ス
 ルトキ其番号ノ順序ニ從ヒ之ヲ徴集ス

〔註釋〕 現ニ前條ニ記スル如ク籤丁抽籤ノ時現役外ノ番号即チ補
 充籤チ抽キタル者ヲ以テ一ケ年間即チ其抽籤ノ年ノ四月ヨリ

翌年ノ四月迄ノ間補充員トナシ其間ニ於テ現役徴員ニ欠チ生
 スルカ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之カ欠
 チ補ヒ又ハ其不足ニ充テル爲メ徴集セラル其法例ハ籤丁五
 百人内二百人ハ現役當籤ニシテ三百人ハ補充籤ナルハ第一
 番ヨリ二百番迄ハ現役ニ徴集セラル、ヲ以テ第二百一番ヨリ
 五百番迄ハ補充員トナル故ニ其二百壹番ヲ抽タル者ハ補充員
 第一番トシ逐次番号ヲ定メテ三百番(原五百番)ニ至ル而シテ其
 補欠等ニ付依ニ百人ヲ徴集スルトセバ其徴集ニ應スベキモノ
 ハ第一番補充員ヨリ第百番補充員迄ヲ徴集シ尙ホ五十人ヲ徴
 集セントスルハ第百一番補充員ヨリ第百五十番補充員迄ヲ
 徴集ス以下此例ニ依リ順序ニ之ヲ徴集スルモノトス但補充員
 タルモノハ其抽籤ノ年ヨリ一ケ年ヲ限リ一ケ年ヲ過グレハ第

一豫備徴員ニ移ルヲ以テ補充トシテ徴集スル事ナシ
 補充員ノ數ハ概テ現役徴員ノ五分二即チ現役徴員五十人ニ付
 二十人百人ニ付四十人ノ割合ヨリ以上ナリトス而シテ其最多
 ニ付制限ナキヲ以テ右以上ナレバ幾割ニモ登ルヲ得ベシ而シ
 テ現役徴集ノ數ハ徴兵使ヨリ府縣ニ配當セラル、ニ付壯丁中
 ヨリ其配當ノ分ヲ以テ現役徴員ノ數ト補充員ノ數トヲ定ムベ
 キモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徴集ノ命ナキ者及び第十八條第
 三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢滿二十七
 歳迄之ヲ第一豫備徴員トス

〔註釋〕 補充員トナリタル者ニテ其年四月十日以後翌年四月九日
 迄ニ徴集ノ命ナキ者及び官立大學校并ニ之ニ準ズル官立學校

ノ本科生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢滿廿
 七歳迄之ヲ第一豫備徴員トナシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ
 要スルキニアラザレバ徴集スルコトナシ

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徴集ノ命ナキ者第十八條
 第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫
 備徴員ヲ終リタル者年齢滿三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徴員トス但
 第十七條ニ當ル者第二豫備徴員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲
 グル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徴集ス

〔註釋〕 第十七條ニ該當スル者ニシテ其年即チ四月十日ヨリ翌年
 四月九日迄ノ間ニ於テ徴集ノ命ナキ者ト第十八條第二十一條
 ニ當ル者ニシテ七個年間即チ年齢滿二十一歳ヨリ滿廿七歳迄
 事故ノ存スル者ト第一豫備徴員ヲ終リタル者ハ年齢滿三十二

歳迄ハ之ヲ第二豫備徴員トス
 第十七條ニ當ル者第二豫備徴員トナリタル後六ヶ年間ニ其資格ヲ失ヒ又ハ第十八條第廿一條ニ當ル者其七ヶ年間ニ於テ事故罷ムトキハ現役ニ徴集セラル、モテ勿論ナリト雖モ若シ其四月十日以後九月十五日以前ニ於テ其資格ヲ失ヒ又ハ其事故罷ミ其期限内再ビ其資格ヲ得ルカ又ハ其事故ノ生ズルハ其第十七條ノ資格ヲ得タルモノハ其一ヶ年ヲ待テ徴集ノ命ナキ者ニ限り再ビ第二豫備徴員トナリ更ニ其事故ノ生ゼシ者ハ再ヒ徴集猶豫トナリ之ヲ繼續スルモノナルベシ蓋シ其資格ヲ失ヒ又ハ其事故罷ミ再ビ其資格ヲ得又ハ其事故ノ生スルトハ例ヘハ戸主タルヲ以テ徴集猶豫シ終ニ第二豫備徴員トナリタルモノ六ヶ年内ニ於テ戸主滿六十歳以上ノ嗣子タル者其資格ヲ失

ヒ更ニ年齢滿六十歳以上ノ戸主ノ跡ヲ繼ギ戸主トナルカ又ハ教正ノ職ニ補セラレ或ハ府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持シテ公立小學校ノ教員ノ職ヲ奉スルヲ以テ第十八條第二項ニ據リ徴集猶豫トナリタルモノ其職務ヲ罷メ更ニ戸主トナリ第十七條第五項ノ資格ヲ得ルカ又ハ更ニ他ノ小學校ノ教員トナル等ノ類ヲ云フ

本條中七ヶ年間其事故ノ存スル者云々トアリ故ニ七ヶ年間事故ノ存セザルモノハ前文ノ如ク更ニ現役徴集セラレ而シテ其順序ヲ得テ豫備徴員トナルベシト雖モ若シ例ヘハ滿二十六歳ニシテ事故解ケ二十七歳ニシテ現役ニ付キ現役三年ヲ經タルハ既ニ其滿期ハ三十歳トナル是ヲシテ例規ノ如ク豫備兵役ニ服シ又後備兵役ニ服セシムルハ全ク兩役ヲ終ルハ三十七

歳トナル斯ノ如キモノハ既ニ兩役ニ於テ三十二歳ヲ過ギルヲ以テ豫備徴員トナスベカラサルモノトス

第三十三條 豫備徴員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之

ヲ徴集ス但第二豫備徴員ヲ徴集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

〔註釋〕本條起頭ニ掲グル豫備徴員トハ第一第二兩徴員ヲ總稱シ

タルモノニシテ其徴員タル平時ニ在テハ徴集スルコトナシ若シ

戰時若クハ事變等ニ際スルモ兵員ヲ要スルニアラザレバ又徴

集スルコトナシ而シテ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルニ常

リテハ第一豫備徴員ハ豫備兵召集ノトキ即チ後備兵召集ノ已

前ニ徴集セラル、コアルモ第二豫備徴員ニ在テハ後備兵召集

ノ以前ニ於テ之ヲ徴集スルコトナシ

○第六章 雜則

〔註釋〕本章ハ徴兵ニ關スル諸雜件ヲ掲載スルモノナリ

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歳ト爲ル者ハ其年

ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人戸主ナレハ自身以下ヨリ

本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ

届出可シ

〔註釋〕年齡滿十七歳ヨリハ國民兵役ニ付クベキモノニシテ即チ

兵籍ニ入ルベキモノタレハ其年一月ヨリ十二月迄ニ於テ滿十

七歳トナルモノハ其十七歳トナルベキ年ノ九月一日ヨリ同月

十五日迄ニ其戸主ヨリ十七歳トナルベキ者ノ氏名族籍住所誕生

生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シタル書面ヲ本籍地ノ戸長ニ届クベ

シ

氏名トハ其者ノ苗字ト名ニシテ族籍トハ華族士族平民ヲ云フ
 住所トハ其住所ノ地名ヲ云フ寄留ノ者ハ本籍ノ地名ト寄留ノ
 地名トヲ記スベシ又子弟家族ハ何某ノ長男二男兄弟叔伯父
 附籍等ノ類ヲ肩書シ若シ職業ナキ者ハ無業トシ棄兒等ノ如キ
 推測ノ年齢ニシテ生月日ノ知レザル者ハ推測ノ年齢ニ據リ生
 月日不明ノ事由ヲ記スベシ但シ國民兵役ハ本籍地ヲ管スル軍
 管ノ兵籍ニ入ルベキモノタレハ假令寄留者タリトモ必ラズ本
 籍地ノ戸長ニ届出ベシ
 此届出ヲ爲サバハ第四十三條ノ罰金ヲ處セラルベキニ付
 尤モ注意シテ怠ルベカラス
 第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢二十歳ト爲ル者ハ其年ノ
 九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届

出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事
 由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ
 現ニ服役スル者ハ届出ルニ及バス
 〔註釋〕 其年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳ニナルモノハ翌年
 ノ徵集ニ應ズベキニ付假令第十七條第十八條及ヒ二十一條等
 ニ該當シ徵集猶豫スベキモノト雖ヒ其年九月一日ヨリ同月十
 五日迄ニ本人戸主ナレバ本人若シ非戸主ナルハ其戸主ヨリ
 書面ヲ以テ本籍地ノ戸長ニ届ケ出ベシ
 其書面ノ書式ニ於ケル更ニ布達達等ヲ以テ公示セララルベシト
 雖ヒ其第十七條第十八條第二十一條等ニ該當シ徵集猶豫セラ
 ルベキ資格ヲ有スル者ハ必ラズ其旨ヲ記載スルヲ要ス若シ其
 記載ヲ怠リ徵員ノ部ニ撰定セラレタルハ後日其事由ヲ以テ

猶豫等ヲ請フモ猶豫セラルベカラサルモノトス
 其届出ヲ爲シタルノ後即チ九月十六日以後翌年四月十日以前
 ニ於テ例ヘハ第十七條第三項ノ嗣子タル者嗣子ヲ罷ムルカ又
 ハ第十八條ノ第一項ノ教正タルモノ其職ヲ免ゼラル、カ若ク
 ハ嗣子タル者戸主トナルカ或ハ徵員タル資格ヲ有スル者重罪
 ノ刑ニ處セラル、カ其他總テ其身分ニ付異動ヲ生シタルハ
 其事柄ヲ詳ラカニ記載シテ其異動ヲ生シタル日ヨリ三日ノ内
 ニ本籍地ノ戸長ヘ届出ベキモノトス
 若シ他管ニ寄留ノ者ニシテ其寄留地ニ於テ徵集ノ儀ヲ出願セ
 シ者ノ異動ニ於ケル其寄留地戸長ヘ届出ヘキハ勿論ナリトス
 本條但書ノ現ニ服役トハ現役兵ノコニアラズ現在兵役ニ服ス
 ルノ謂ナルベシ故ニ第十條第十一條等ニ依リ滿十七歳ニ於テ

現役ニ服シ各自届出期限前ニ豫備役ニ入タルモノ、如キモ又
 現ニ服役者タルヲ以テ適齡ノ際別ニ届出ニ及バザルモノナル
 ベシ何トナレハ是等ノ者ノ如キハ現ニ常備兵役等ノ名簿ニ記
 シアリテ其就役者タル明白ナルヲ以テナリ
 本條届出ニ付テハ尤モ註意シテ怠ルベカラズ若シ其届出期限
 ニ届出テ怠リタルハ第四十三條ノ罰金ニ處セラル、ノミナ
 ラズ假令徵集猶豫セラルベキ資格ヲ有スルモノト雖モ其猶豫
 チ得ベカラズシテ第四十一條ニ據リ抽籤ノ法ヲ用ヒズ直ニ現
 役ニ徵集セラル、コアルベケレバナリ
 第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二
 十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シ
 タルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸

主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前
本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

〔註釋〕 本條ハ徵集猶豫ノ者翌年四月十日ヨリ九月十六日迄ニ異

動ヲ生シタルモノ、届出方ヲ示スモノニ例ヘバ戸主年齢六
十歳未満ナルモ癡疾又ハ不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能
ハザルヲ以テ其嗣子承祖ノ孫第十七條第四項ニ依リ徵集猶豫
セザレタル者其戸主疾病快復シ或ハ教正ノ職ニアルヲ以テ第
十八條ノ第一項ニ依リ徵集猶豫セシモノ免職トナリ或ハ官立
學校ニ於テ一ケ年以内ノ課程ヲ卒タル生徒タルヲ以テ第十九
條ニ依リ六ケ年以内徵集猶豫セザレタル者退校ヲ爲シ又ハ其
年限ヲ經過シ或ハ餘人ヲ以テ代フベカラザル技術ノ職ヲ奉ゼ
シニ依リ第二十二條ニ依リ太政官ノ裁決ヲ經テ徵集猶豫セラ

レタル者免職又ハ他官ニ轉セシ如キ其資格ヲ失ヒ又ハ其事
ノ止ミ若クハ第十七條ニ當ル者徵集猶豫一ケ年間ヲ過ギ第二
豫備徵員トナリタル後六ケ年間ニ於テ其資格ヲ失ヒタルカ如
キ四月十日以後ニ於テ身分ニ異動ヲ生シタルハ其事柄ヲ詳
カニ記載シ其年九月一日ヨリ九月十五日迄ニ本籍地戸長ニ届
出テ若シ九月十六日以後翌年四月十日以前ニ於テ前文ノ如キ
異動ヲ生シタル者ハ三日以内ニ本籍地戸長ニ届出ヘキモノト
ス蓋シ其四月十日以後ニ係ル異動ハ九月一日ヨリ十五日迄ニ
届出九月十六日ヨリ翌年四月十日迄ノ異動ハ三日以内ニ届出
シムル所以ノモノハ他ナシ其四月十日以後ニ於テ第十七條ノ
資格ヲ失ヒ及ヒ第十八條等ノ事故止ミタルハ之ヲ翌年ノ徵
集ニ應ゼシメ又九月十六日以後四月十日以前ニ係ルハ之ヲ

本年ノ徵集ニ屬セシムベキヲ以テナルベシ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應ゼント欲スルトキハ其地ニ居住スル者主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戶主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戶長ニ差出ス可シ

〔註釋〕 他府縣ニ寄留スル者寄留地ニ於テ徵集ニ應ゼントスルモハ其寄留地ニ居住スル戶主タル者ヲ以テ證人トナシ其年八月十五日迄ニ戶主ヨリ本籍ノ管轄廳ニ出願スヘシ

本條寄留地居住ノ戶主ヲ以テ證人ト爲ス云々ト掲載アレモ若シ其寄留スルモノ全戶ナルモハ敢テ他ノ證人ヲ立ルニ及ザルノトス而シテ徵兵年齡ニ際シ寄留地戶長ニ届書差出方ハ第三十五條ニ註スル處ニ據リ了スヘシ

第三十八條

現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

〔註釋〕 現役兵トシテ鎮臺營所或ハ軍艦等ニ在ルモノニハ規則ノ

通り日割ヲ以テ給料ヲ給與シ衣服食料等ヲ與フ但現役兵タリトモ歸休ヲ命セラレ既ニ在營在艦等ニアラサルモノニハ之ヲ給與セサルヘシ

第三十九條

疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由

ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戶長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

〔註釋〕 入營トハ現役徵員トナリ徵集セラル、處ノ鎮臺營所ニ入ルチ云フ其入營ノ期ニ際シ疾病ナルカ或ハ犯罪等ニテ裁判中ナル等ノ事故ニ依リ入營スルコト能ハサルモハ其入營シ難キ事由ヲ詳カニ記載シ即日戶長ニ届出ベク而シテ其疾病ニ因リ入

營ナリガタキ者ハ其届出ノ外ニ醫師ノ診断書ヲ添テ届出ベシ
又其事故止ミテ入營スルコトヲ得ルニ至リタル時モ即日其趣チ
書面ニ認メ戸長へ届出ヘシ若シ怠リテ此届出ヲ爲サ、ルモノ
ハ第四十三條ノ罰金ニ處セラルヘキヲ以テ注意スヘシ

第四十條 第三十九條ニ掲グル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マ
サルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徴員
ニ先チ徴集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌
年徴集ノ期ヲ待タズ徴集ス

〔註釋〕 其徴員トナリ入營スベキモノ疾病事故等ニ依リ其期ニ入
營シ能ハサルトキハ之ヲ延期シ其疾病快癒スルカ又ハ事故止ム
ヲ待テ入營セシムヘシト雖モ若シ其年ノ九月一日迄ニ快復セ
ス或ハ事故止マザルトキハ翌年廻シノ者トナシ翌年ノ徴集ニ加

ヘ翌年更メテ検査ヲナシ尋常ノ徴員ヨリ前ヘニ徴集スベシ然
レ共戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徴集ノ期
限ヲ待タズ其疾病又ハ事故止ミ次第直ニ徴集スヘキモノトス
本條ハ其一期ヲ示シタルモノ、如シト雖モ若シ其三十九條ニ
掲クル者ニシテ翌年ニ至ルモ疾病平癒セサルカ又ハ事故止マ
サルトキハ本文ノ如ク延期ヲナスヘキモノトス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐
偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク檢
査所ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ
抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徴集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條
ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徴集ス

〔註釋〕 身體ヲ毀傷スルトハ例ヘハ食指ヲ折リ目ヲ瞎シ脚ヲ挫等

我が体ヲシテ兵員トナルベカラサル資格ノモノトナシ疾病ヲ
 作爲スルトハ其癡疾不具等ニ至ラシメサルモ傷ヲ作り或ハ求
 メテ病氣ヲ作メ徴員ヲ免カルベキ策ヲナシタル者ヲ云フ其他
 詐僞ノ所爲ヲ用フルトハ其無病ナルニ疾病ト詐リ戸主癡疾不
 具等ニアラス又ハ疾病不具等ナリトモ一家ノ生計ヲ營ミ得ル
 テ癡疾不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ミ得サル旨ヲ申立或ハ戸主
 又ハ前戸主滿六十歳以上ニアラサルヲ滿六十歳以上ナリト申
 立ル等總テ徵集ヲ規避スル爲メニ詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ヲ
 云フ逃亡トハ規避ノ爲ニ家出ヲナシタルモノニシテ前條ニ掲
 グル失踪ト同視スヘカラス蓋シ失踪ハ規避ノ意ナクノ家ヲ出
 歸ラサル者ヲ云フナリ其兵役ヲ免カレントシテ身体ヲ毀傷シ
 疾病ヲ作爲シ或ハ詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡シ若クハ潜匿シ

タル者其他正シク検査所ニ出ツルヲ出來得ルニ其検査所ニ參
 會セザル者第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤
 ナサスシテ直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年検査ノ上事故ニ依リ
 翌年廻トナリタル者ヨリ先キニ抽籤ナクシテ徵集スヘキモノ
 トス

其第三十五條第三十六條ノ届出タル戸主ヨリ之ヲ爲スヘキモ
 ノタルヲ以テ其子孫兄弟等ノ適齡ニ付届出ヲ怠リタルハ戸主
 ノ怠リニシテ其子孫兄弟等ノ怠リニアラサルト雖モ其子孫兄
 弟等ニ於テハ又此處分ヲ被ムルベキモノトス但其第四十三條
 ニ掲クル罰金ハ戸主ノ之ヲ科セラルヘキモノニシテ其子孫兄
 弟等共犯ヲ以テ論スベカラサルモノトス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日第一

條ニ編入者ヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年ノ計算ハ其定例編入可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年ニ算入セス

〔註釋〕其定例編入スヘキ年トハ豫備兵役ニ付テハ現役三年ヲ過ギ第四年目ノ四月廿日(例)ハ滿二十一歳ニテ現役ニ就キタルモノナレハ滿二十四歳ノ四月廿日ヨリ之テ起算シ後備兵役ニ付テハ豫備兵役四年ヲ過ギ第五年目ノ四月廿日(例)ハ滿二十四歳ヨリ豫備兵役ニ付キタルモノハ滿二十八歳ノ四月廿日ヨリ起算スルヲ云フ然レ共服役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其間ハ兵役ヲ脱シタルモノタルヲ以テ服役年ニ算入セズ故ニ例ハ二十一歳ノ四月二十

日ニ現役ニ付キ其年ノ六月一日ヨリ同月三十日迄三十日間禁錮ニ處セラレ或ハ監視ニ付セラルカ又ハ六月一日ニ逃亡シテ同月三十日ニ歸營タル者ハ其服役セザル三十日ハ年期ニ算入セザルヲ以テ滿二十四歳ノ年ノ五月十九日ニ於テ現役ヲ終リ翌廿日ヨリ後備役ニ入り滿二十八歳ノ年五月十九日ニ至リ之ヲ終リ其翌日ヨリ後備役ニ入り滿三十三歳ノ年ノ五月十九日之ヲ終ルガ如シ

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サル者及ヒ檢査時日ノ指定ヲ受ク正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔註釋〕本條正當云々ニ付テハ第四十一條ニ註記スル處ヲ參照ス

第四十四條 兵役ヲ免レンガ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔註釋〕逃亡潜匿及身体毀傷疾病作爲詐僞等ニ付テハ第四十一條ニ掲クル處ニ據リ了スヘシ

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

〔註釋〕此徵兵令ヲ施行フ爲メニ要スル處ノ諸規則ハ此他別段ニ布達ヲ以テ定メラルヘキモノトス故ニ其手續ノ如何ニ付テハ猶其布達ノ出ルヲ待テ之ヲ了スヘシ

軍管師管

國

名

第 武藏ノ内 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區
 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 横濱區 荏原郡 南豊島

第 五	第 二	第 三	一	一	一	一	
			二 第	二 第	二 第	二 第	
諏訪郡	尾張ノ内 名古屋區 海東郡 海西郡 知多郡 中島郡 信濃ノ内 東筑摩郡 西筑摩郡	陸前ノ内 柴田郡 名取郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡	武藏ノ内 本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 安房 上總 下總 常陸 下野	信濃ノ内 南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 埴科郡 更級郡	大里郡 秩父郡 兒玉郡 那珂郡 賀美郡 相模 甲斐 伊豆 上野	郡 北豊島郡 南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 久良岐郡 橋樹郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡	横見郡 秩父郡 兒玉郡 那珂郡 賀美郡 相模 甲斐 伊豆 上野

三	尾張ノ内 丹羽郡	東春日井郡 西春日井郡	美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前
四	攝津ノ内 東區 西區 南區	住吉郡 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那賀	伊都郡 有田郡 日高郡 東
五	阿波 讚岐 伊豫 土佐	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	備前 因幡 伯耆
六	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	若狹 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆
七	攝津ノ内 北區 東成郡 住吉郡 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那賀	西牟婁郡 山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀	攝津ノ内 八部郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡 能勢郡 播磨 淡路
八	攝津ノ内 八部郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡	西成郡 島上郡 島下郡 川邊郡 有馬郡	若狹 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆
九	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	阿波 讚岐 伊豫 土佐	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩
十	阿波 讚岐 伊豫 土佐	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬
十一	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	若狹 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆
十二	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	若狹 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆	攝津ノ内 八部郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡

第七 渡島 後志 石狩 天塩 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千島

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
 徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設
 クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限り之ヲ行ヒ第二軍管ノ管
 轄ニ屬セシム

○附錄 徵兵令改正ニ付心得方

達甲第四拾四号 府縣 沖繩 札幌 根室 三縣ヲ除ク

今般第四十六号布告徵兵令改正相成候處本年徵兵適齡即チ來十七年
 徵集ス可キ者ハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早諸名簿整理頓後ニ係ル
 チ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊令ニ據リ徵集致シ新令第十一條第十
 七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十五條第二項第三十條

第二項第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七年適齡即チ十八年徵集ス可キ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相達候事

明治十六年十二月廿八日

陸軍卿 大山 巖

〔註釋〕 徵兵令改正ナリタルト雖昨十六年適齡即チ年齢滿廿歲

ニシテ本年徵集セラルヘキモノハ前令ニ依リ徵集ス故ニ假令新舊第二十二條ノ各項ニ該當スルヲ以テ第十七條ノ各項ニ據リ徵集猶豫セシレサル者タリトモ舊令ニ於テ免役ノ部(後ニ掲ク)ニ掲載アリ己ニ國民軍ノ外兵役ヲ免シ或ハ平時免役トナシタル者ハ徵集ヲ爲ササルモノトス然レモ本年以後年齢滿二十歳トナリ來十八年ヨリ徵集スヘキ者ヨリハ新令ニ據ルヘキニ付假令明治十六年以前舊令ニ掲ケアル免役ノ名稱ヲ得且之ヲ繼續スルモノト雖モ第十七條ノ各

項ニ當リ第廿二條ノ各項ニ外ル、モノナルカ或ハ第十九條第廿一條ニ當ルモノニアラサレハ徵集猶豫等ノ處分ヲ被フルヲナシ故ニ是等ハ皆徵集セラルヘキモノトス第十一條ニ掲クル官立府縣立學校小學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ入費ヲ自ラ辨ヒ願ニ因リ一ケ年陸軍現役ニ服スルモノ第二十五條第二項ノ海軍及ヒ近衛ノ諸兵ヲシテ全國ニ徵スル件第三十條ノ現役五分ノ二以上ヲ以テ補充員トスル件第三十一條ノ官立大學校及ヒ之ニ準スル家校ノ本科生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタルモノヲシテ第一豫備徵員ト爲ス件第三十六條ニ當ル事項等ハ客年適齡今年徵集ニ應スヘキモノハ舊令ニ據ルヘキニ付本年適齡ニシテ來十八年徵集スヘキモノヨリ之ヲ實施ス故ニ官立大學校及ヒ之ニ準スル

官立學校ノ本科生徒ニシテ昨十六年九月十五日以前已ニ二箇
 年以上ノ課程ヲ卒リタル者舊令ニ於テ翌年廻シ徵集猶豫トナ
 リシ分ハ本年九月十五日迄之ヲ繼續スルニ於テハ新令ニ於テ
 第二豫備徵員トナルヘケレモ若シ其各自届出期限以前退學等
 チ爲シタル者ハ明年ノ徵集ニ應セシムヘキモノトス

○注意 新舊法ニ基キ免否猶豫ノ要件

舊令ニ於テ除役ノ者 舊令第二十七條

第一 癡疾又ハ不具等ニシテ陸軍醫官検査規則ニ照シ兵役ニ堪ユ
 ヘカラザルモノ

〔註釋〕 本文ノ如キ者明治十六年以前適齡ニシテ既ニ兵役ヲ除カ
 レタリト雖モ年齡滿廿七歳ニ至ル迄ニ回復シテ兵役ニ堪ユヘ
 キ資格ヲ備フルルモハ更ニ現役ニ徵集セラルヘキモノトス

第二 徵役禁錮一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セ
 ラレタルモノ

〔註釋〕 本文ノ如キ者明治十六年以前適齡ニシテ已ニ兵役ヲ除カ
 レタル分ハ爾後徵集セラルコトナカルベシト考フルト雖モ
 或ハ新令第十八條第九項ノ明文ニ從ヒ公權停止ノ處分ヲ終リ
 タル者ハ更ニ現役ニ徵集セラルベキヲ保セス是等ニ在テ宜ク
 其筋ノ訓示ヲ仰グベシ

舊令ニ於テ國民軍ノ外兵役ヲ免ズル者 舊令第二十八條
 第一 戶主

但徵兵年齡以前ニ分家シ又ハ新タニ分家シタル女戶主ニ
 入婿シ或ハ絶家ヲ再興シ及ヒ年齡五十歳未滿ノ者隱居シ
 養子或ハ相續人ニシテ其跡ヲ繼キタル戶主ハ此限ニ非ス

〔註記〕 明治十六年以前適齡ニシテ本文但書ニ外ル、戸主タルヲ以テ舊令ニ於テ既ニ免役トナリ或ハ其但書ニ該當スルモ明治十二年十月廿六日即チ舊令頒布以前ニ係ルモノナルヲ以テ同年十一月陸軍省達甲第二十二號達ニ據リ已ニ免役トナリタルモノハ明治十七年以後ト雖モ其資格戸主ノ身分ヲ失ハサルニ於テハ徵集セラルコトナカルヘシ

其前文ニ於テ滿六十歲未滿ニテ隱居シタル者ノ跡ヲ繼キタル戸主ニ於ケルモ明治十七年以後徵集セラレサルヘキコトヲ漏ケタルモノハ明治十六年以前ノ調査ニ於テ免役ノ調トナリ明治十七年以前既ニ免役セラレタル者ナルカ故ナレハ明治十七年ニ年齢滿二十歲トナリタルモノハ假令其父祖年齢滿五十歲以上ニシテ明治十六年十二月廿八日新令頒布以前ニ隱居シテ其家

督相續ヲナシ戸主トナリタルモノニテモ前戸主滿六十歲以上ナルカ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルカ若クハ癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル等ノ事故アル者ニアラサレハ徵集猶豫セララル、コアルマシ而シテ其前戸主癡疾不具タリトモ一家ノ生計ヲ營ミ得ルカ或ハ滿六十歲以上ナリトモ猶其前ノ戸主年齢滿六十歲未滿ニシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノニテモナク又癡疾不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能サルモノニモアラサルキハ徵集猶豫セララル、コナシ

第二

獨子嗣孫承祖

但姉妹ノ有無ヲ問ハズ

〔註記〕 本文ノ如キ者明治十六年以前適齡ニテ其戸主ノ年齢ニ係ハラス既ニ免役トナリタル者ハ其嗣子承祖ノ孫タル資格ヲ失

ハサルニ於テハ明治十七年以後ト雖^モ徴集セラル、^コナカル
ヘシ然^ルレ^モ明治十七年以後ノ適齡ノ者ニ在テハ戸主年齡滿六
十歳以上ナルカ或ハ癡疾不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ム^コ能
ハザル者ノ子孫ニアラサレハ徴集猶豫等與^フベカラサルモノ
トス

第三 年齢五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徴兵年齢以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳
未滿ノ者ノ養子^ホ本家ノ故ヲ以テ己ム^テ得サル者ヲ除ク^ト
シ又ハ絶家^カヲ再興^シ或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婿^ト
シ其他子孫ヲ以テ徴兵年齢以前更ニ定メタル嗣子或ハ承
祖ノ孫ハ此限ニ非ス

〔註記〕 明治十六年以前適齡者ニシテ本文ニ依リ既ニ免役トナリ

タルモノハ其資格ヲ失ハサルニ於テハ徴集セラル、^コナルマ
シク然^レモ明治十七年以後適齡ノ者ニ在テハ戸主年齡滿六十
歳以上ナルカ又ハ癡疾不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ム^コ能ハサル
ニアラサル者ノ外ハ徴集猶豫セラル^コナシ但本文但書ニ該當
スルモ明治十二年十月廿六日舊令^キ領布以前ニ係ル明治十六年
以前適齡ニシテ其十二年十一月陸軍省達甲第二拾二號達ニ依
リ既ニ免役セラレタルモノモ亦本文ニ同シ

第四項 年齢五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子^ニ或ハ相續人^ニ

但隱居^イ後別家^ダシテ特ニ定メタル嗣子或ハ相續人ハ此限ニ
非ス

〔註記〕 本文ニ在テハ前項ニ註記スル處ニ同シ但明治十六年十二
月廿七日以前戸主年齡滿五十歳以上トナリ已ニ嗣子ナキヲ以

テ養子ヲ爲シ嗣子ト定メ又ハ相續人ヲ取設置タル者タリトモ十六年以前適齡ニ當リ既ニ免役トナリタルモノ、外ハ徵集猶豫スルコトナシ

第五項 年齢五十歳未滿ト雖モ癡疾又ハ不具等ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子承祖ノ孫及ヒ養子嗣或ハ相續人

〔註記〕 本項ハ新令第十七條ノ第四項ト相同シキヲ以テ其戸主タル者産業ヲ營ミ得ルニ至ルマデハ假令明治十七年以後適齡ノ者タリトモ徵集ヲ猶豫セラルベキモノトス

而シテ舊令ノ明文ニ據ルルハ戸主ニアラスト雖モ本項ニ該當スベキモノハ免役ニ屬スベキモノタルヲ以テ例ヘハ非戸主(戸主ノ弟或ハ叔伯等ニテ其子孫アル者)ニテモ此處分ヲ受ケタルモノアルベケレトモ其非戸主ノ子孫ニ在テハ明治十六年以前

適齡ニシテ既ニ免役セラレタルモノハ徵集セラル、コアルマ

シト雖モ明治十七年以後適齡ノ者ハ此處分ヲ蒙ルコトナシ

第六 官吏判任及ヒ教導職試補以上並ニ戸長

〔註記〕 新令第二十條第一項第二項ニ註記セシ處アルヲ以テ知ラ

第七 府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

〔註記〕 新令第二十條第四項ニ註記セシ處ニ依リテ知ルベシ

第八 公立學校教員及ヒ文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校教員

〔註記〕 新令ニ於テハ官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニアラザレバ官立公立學校ノ教員タリトモ徵集猶豫セラレザルヲ以テ其己ニ官立公立學校ノ教員トナリ繼續シテ其職

ヲ奉ズルモノタリトモ該卒業證書ヲ所持セザルモノハ徵集セ
アルベシ然レモ其本項ニ漏グル處ノ教員タルヲ以テ明治十六
年以前適齡ニシテ免役トナリタルモノニ限り爾後其職ヲ失ハ
ザルニ於テハ徵集セラル、コナカルベシ

舊令ニ於テ平時免役ノ者 舊令第廿九條

第一 年滿五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年滿以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歲未滿
ノ者ノ養子ヲ得ザル者ヲ以テ已ムトシ又ハ絶家ヲ再興シ或ハ新
タニ分家シタル女戸主ニ入婿シ其他子孫ヲ以テ徵兵年滿以前
ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ズ

〔註記〕 本文ノ者又ハ本文但書ニ當ルト雖モ明治十二年十月廿六
日舊令頒布以前ニ定メタル者ニシテ舊令及ビ同年十二月陸軍

省達甲第二十二號達ニ依リ明治十六年以前既ニ平時免役トセ
ラレタル者其資格ヲ失ハサルニ於テハ明治十七年以後ト雖モ
徵集セサルヘシト雖モ若シ是等ノ者ニシテ明治十七年以後適齡
ニ係ル時ハ其戸主癱疾不具等ニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサ
ル者ノ外ハ徵集猶豫セラル、コナシ
本項ニ於テハ年滿五十歲未滿ノ者ノ嗣子云々トアルヲ以テ假
令非戸主ノ實長男ニ在テハ或ハ平時免役ニ屬シタルモノアル
ベシ然レモ一旦平時免役ノ處分ヲ受ケタルモノニ在テハ假令
非戸主ノ嗣子タリトモ徵集セラル、コアルマシト考フ

第二 陸海軍生徒并ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

〔註記〕 海軍定雇職工ハ客年海軍省乙第九號達ヲ以テ海軍工夫ト
改定セラレタルヲ以テ本項ハ殆ト新令第十八條第四項ニ相當

ルモノタルヲ以テ茲ニ註セス宜シク該項ニ記スル處ヲ参照ス
ベシ

第三 陸海軍常備在役中死没又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷痍ヲ受ケ
退隱セシ者ノ兄或ハ弟一人

但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因シタル疾病死没モ亦此
例ニ準ス

〔註記〕 舊令ニ於テ常備役ノ外豫備軍ナルモノアリ新令ニ於テハ
常備兵役中現役豫備ノ兩兵役ヲ分ツ故ニ舊令ノ常備軍ハ新令
ノ現役ト殆ト相同シ故ニ本項ハ新令第十七條第二項ト又殆ト
同一ナリ然レ共其但書ニ在テハ大ニ異ナルモノトス何トナレ
ハ舊令ニ於テハ豫備後備ノ服役中公務ニ因リ疾病死没セシモ
ノモ本項ニ準シ其兄或ハ弟ノ内一人平時免役ニ屬スヘキト雖

旧新令ニ在テハカ、ル明文ナキヲ以テ現役中ノ者ハ徵集猶豫
セラルヘシト雖ヒ豫備後備役ノ者ニ在テハ假令公務ニ因リ疾
病死没スルモ其兄或ハ弟ヲシテ徵集猶豫セザル、トナシ
己ニ本項但書ニ依リ明治十六年以前平時免役トナリタルモノ
ハ其疾病者回復スルコアラザレハ依然之ヲ繼續シテ徵集セラ
レザルヘシ然レ共本人年齢滿廿七歳迄ノ間ニ於テ若シ其疾病
快復スルキハ更ニ徵集セラルヘキモノトス

第四項 醫術開業免狀ヲ所持スル者

〔註記〕 明治十六年以前適齡ニシテ本項ノ明文ニ據リ己ニ平時免
役トナリタルモノハ新令頒布以後ト雖ヒ之ヲ徵集スルコアル
マシ然レ共其假令明治十六年以前開業免狀ヲ附與セラレタル
モノタリトモ明治十七年以後ノ適齡者ニアリテハ免狀ヲ所持

スルノ故ヲ以テ徵集猶豫セラル、コナシ

第五 公立使府縣設立ニ係ル以下公師範學校ニ於テ卒業ノ者

第六 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業ノ者

第七 文部省所轄官立學校及ヒ其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

〔註記〕 前三項ノ卒業者ニシテ明治十六年以前適齡ニテ舊令ニ於

テ已ニ平時免役トナリタル者ニ在テハ新令發行以後ト雖ヒ徵

集スルコアルマシ然レモ明治十七年以後ノ適齡者ニ在テハ假

令明治十六年以前卒業ノ者タリトモ公立學校教員ノ職ヲ奉ス

ル者ニアラサレハ徵集ヲ猶豫セサルヘシ

第八 外國ニ留學シテ二ケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持ス

ル者

〔註記〕 本項ニ該當スル者ニ於ケルモ前三項ニ該當セシモノト同

シク明治十六年以前適齡ニシテ現ニ免役トナリタルモノハ徵

集猶豫セラルヘシト雖モ明治十七年以後ノ適齡者ニ在テハ徵

集猶豫セラル、コナシ

第九 海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ所

持スル者

第十 海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ在テ水火夫ノ業ヲ

取リタルコトヲ證明スル者

〔註記〕 前二項ニ掲載スル免狀ヲ所持シ又ハ之ヲ證明シタル故チ

以テ明治十六年以前適齡ニテ平時免役トナリタル者ハ明治十

七年以後徵集セラルマシト雖モ明治十七年以後適齡ノ者ニ在

テハ之ガ爲メ徴集猶豫セラル、コナシ
一ケ年ヲ限リ徴集ヲ猶豫スベキ者 舊令第三十條

第一 海軍兵員ト爲フコトヲ志願スル者

〔註記〕 本項ニ掲グル者タルヲ以テ明治十六年以前適齡ニシテ既

ニ一ケ年限リ徴集ヲ猶豫セラルモノハ明治十七年ハ之ヲ

猶豫セラルベシト雖、明治十七年九月十五日以前ニ海兵徴募

ニ應ゼザルニ於テハ明治十八年ニ於テ徴集セラレ是ガ爲メ猶

ホ猶豫ヲ興フルコトナカルベシ

第二 兄弟同時ニ徴兵ニ當ル者偶數ハ其半數寄數ハ其寡數三人ハ

一人五人ハ二人
他皆之ニ倣フ

〔註記〕 本項ニ掲グル故ヲ以テ明治十六年以前適齡ノ者ニテ明治
十七年以前ノ徴集ニ於テ二人以上猶豫セラレタル者ハ明治十

八年ノ徴集ニ至リ賣人ヲ除キ他ハ皆之ヲ徴集セララルベシ

第三 陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟一人

〔註記〕 本項ニ據リ明治十六年以前ノ適齡ニシテ明治十七年以前

ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者ノ内若シ其兄或ハ弟下士ノ故ヲ以

テ猶豫ヲ爲シタル者ハ明治十八年以後之ヲ徴集シ常備兵役中

ノ卒タルニ依リ猶豫セラレタルモノハ新令第十七條第一項ニ

依リ其兄或ハ弟現役ヲ終ルマデハ之ヲ猶豫セララルベシ但シ本項

ニ云フ常備在役トハ新令ノ現役ニ相當スルモノニシテ豫備兵

役ノ者ニハアラザルモノトス

第四 陸海軍生徒ノ兄或ハ弟

但本條第二項乃至第四項ノ場合ニ於テ其兄或ハ弟ノ中一人不
合格ナルモハ此例ニ非ズ

〔註記〕 既ニ明治十六年以前ノ適齡ニシテ本項ニ當リ明治十七年以前ノ徵集猶豫トナリタル者ハ其事故ノ止ムト否トヲ問ハズ新令ニ於テ此明文ナキテ以テ明治十八年ノ徵集ニ應セシムベキモノトス

第五 父及ビ兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癡疾不具等ニテ産業ヲ營ムコト能ハズ本人ヲ要セザレバ一家ノ生計ヲ失フ者

〔註記〕 若シ其父タル者戸主ニシテ癡疾不具等ニテ産業ヲ營ムコト能ハザル故ヲ以テ其嗣子明治十六年以前適齡ニシテ明治十七年以前徵集ヲ猶豫セザレタル者ハ新令第十七條第四項ノ明文アルヲ以テ徵集猶豫ニラレベシト雖モ若シ其父戸主ニアラズ又兄失踪或ハ癡疾不具等ニシテ産業營ムコト能ハザル等ノ故ヲ以テ明治十七年以前徵集猶豫ヲ得タル者ニ在テハ明治十八年

ノ徵集ニ應ゼシムベキモノトス
 本項掲載スル處ノ父ト稱スルハ非戸主ヲ指稱セシ者ニシテ又其兄ト稱スルハ嗣子ヲ指稱シタルモノナリ若シ其父ハ戸主ニシテ其兄ハ癡癩者ナルハ其子及ヒ其弟ハ即チ嗣子ノ位ニ付キタルモノタレハ舊令第廿八條又ハ第二十九條第一項ニ依リ國民軍ノ外又ハ平時免役ニ屬スヘキニ付其嗣子タルヲ以テ既ニ平時免役トナリタル者ニ在テハ該二項ニ註記スル處ニ據ルヘキハ勿論ナリトス

第六 文部省所轄並ニ其他省使ニ屬スル官立學校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

〔註記〕 明治十六年以前適齡ニシテ明治十七年以前前ノ二項ニ依リ徵集猶豫ノ者其大學校及ビ準大學校本科生徒ニ在テハ新令第十八條第二項ニ依リ其他官立府縣立學校ノ生徒ニ在テハ新令第十九條ニ該當スルヲ以テ其事故止マザルハ引繼キ六ケ年以内ノ徵集ヲ猶豫セラルヘシ

第八 學術修業者ハ商用等ニテ外國ニ寄留スル者

〔註記〕 明治十六年以前適齡ニシテ本項ニ該當スル故ヲ以テ明治十七年以前徵集ヲ猶豫セラレタル者ハ明治十八年ノ徵集ニ應

セシムヘキモノトス

第九 身幹未ダ定尺ニ滿タズ又ハ疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未ダ勞役ニ堪ユルヲ能ハザル者

第十 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

〔註記〕 前第九項ニ於テハ新令第十八條第五項及ヒ第六項ニ相當リタルヲ以テ明治十六年以前適齡ニシテ明治十七年以前徵集猶豫トナリタル者明治十八年ニ至リテモ事故止マザルハ徵集猶豫セラレヘシ其第十項ニ於テハ殆ト新令同條第八項ニ相當ル者ノ如シト雖モ本項ハ唯刑事被告人云々トアリ新令ニハ禁錮以上ニ該ルヘキ云々トアルヲ以テ其罰金ノ刑若クハ違警罪等禁錮ノ外ノ輕刑ニ該ルヘキ被告人明治十六年以前適齡ニシテ明治十七年以前徵集猶豫トナリタル者假令裁判未決タリトモ明治十八年ノ徵集ニ應セシムヘキモノトス

官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖モ餘人ヲ以テ代フベカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フベシ 舊令第三十一條

但諸省院使府縣雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ技藝傳習中ノ者亦本條ニ準スヘシ

〔註記〕本條ニ據リ既ニ太政官ノ裁決ヲ請ヒ免役セラレタルモノハ新令頒布以後タリ其職ヲ奉シ或ハ其技藝ヲ傳習中ナルニ於テハ徵集スルコトアルマシト雖モ明治十七年以後適齡ノ者ハ新令第二十一條ニ掲クル者ノ外ハ此處分ヲ受ルコト得ス

翌年廻シ徵集ノ者 舊令第四十一條第四十二條第五十六條

檢査呼出ノ時病氣ニテ翌年廻シノ者 節畧

檢査呼出ノ時父母ノ喪ニ罹リ三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病又ハ一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事故アリテ翌年廻シノ者 節畧

疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ八營シ難ク但其年十月一日ニ至ル

モ事故猶止マズシテ翌年廻シトナリタル者 節畧

〔註釋〕已ニ明治十六年以前適齡ニシテ前二條ニ據リ翌年廻シト

ナリタル者ハ其身疾病ニ罹リ入營シ難キカ又ハ其父或ハ母戸主ニテ重病ニ係リ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルモ其身嗣子ナル者ノ外ハ假令後年ニ於テ是等ノ事故ニ係ルカ又ハ其事故繼續スルモ明治十七年以後ニ在テハ翌年廻シトスルコトナシ

免役及ヒ平時免役ノ者並ニ徵集猶豫及ビ翌年廻シトナリタルモノ等既ニ三年間其事故ニ係リ或ハ交互該當シテ三年間其事故存スル者

第廿八條第一項乃至第六項第八項ニ當ル者並ニ第廿九條第一項第二項第四項第九項ニ當ル者常備年期ノ第三年檢査時限ニ至ル迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應ゼシムベシ 舊令第三十二條第三十條ニ當リ一ケ年限リ徵集猶豫スベキ者及ビ第四十一條第四

十二條第五十六條但書ニ當リ翌年廻シニスヘキ者次年ニ至リ猶該條ニ當ルキハ又之ヲ猶豫若クハ翌年廻シニスベシ而シテ終ニ常備年期ノ第三年検査時限ニ至リ猶該條ニ當ル時ハ平時ニ於テ之ヲ免役スベシ 舊令第三十四條

常備年期間第廿八條第一項乃至第六項第八項並ニ第廿九條第一項第二項第四項第九項第三十條第三十一條第四十一條第四十二條第五十六條ノ但書ニ交互該當スルモノハ第三十四條ノ例ニ準ス

但第三年ノ検査時限ニ於テ第廿八條第一項乃至第六項第八項ニ該ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ズ 舊令第三十五條

〔註記〕 舊令ニ於テ第廿八條第一項ヨリ第六項迄及第八項ニ當リ免役トナリ並ニ第廿九條第一項第二項第四項第九項ニ當リ平時免役トナリ三ヶ年間ヲ經過シタル者ハ假令爾後其名稱ヲ止メタル

モ徵集スルコトナキヲ以テ明治十六年以前既ニ此處分ヲ得タルモノニ在テハ明治十七年以後其名稱ヲ止ムルト雖ヒ新令ニ於テ之ヲ徵集スルコトアルマシ然レモ未ダ三年ヲ經過セサル者ニ在テハ其年齡滿廿七歳マデノ内ニ其名稱ヲ罷メタルハ新令第十八條ノ其事故存スル間云々ノ明文ト第三十二條ノ明文トニ依リ更ニ徵集セシルヘキモノト想像ス

舊令第三十條及ヒ第四十一條第四十二條第五十六條ノ但書ニ當リ一ヶ年限リ徵集猶豫トナリ又ハ翌年廻シ徵集ニ屬セシモノ既ニ常備年期ノ第三年検査時限ニ至ル迄猶該條ニ該當セシヲ以テ明治十七年以前既ニ平時免役トナリタル者ハ假令其事故止ミタルモ爾後徵集スルコトアルマシト雖ヒ其新令實施以後ニ係リ未ダ平時免役ノ處分ヲ得サルモノニ在テハ新令ニ於テ徵集猶豫ニ屬

スルモノハ其事故存在中之ヲ猶豫セラルベキモ新令ニ明文ナキ
 モノハ明治十八年ノ徵集ニ應ゼシムヘシ而シテ其明文アルモノ
 ト雖モ年齡滿廿七歳迄ニ事故止ミ又ハ徵集猶豫或ハ翌年廻シ等
 ノ件ニシテ新令ニ掲載ナキ者ハ現役ニ徵集セラルベキハ勿論ナ
 リトス
 新令各
 條見合
 常備年間ニ於テ此名稱ヲ止メテ彼ノ名稱ニ移リタルモノ第廿八
 條第一項ヨリ第六項迄第八項並第廿九條第一項第二項第四項第
 九項第三十條第三十一條第四十條第四十二條第五十條但書ノ免
 役又ハ徵集猶豫若クハ翌年廻シ等ノ名稱ニ交互該當シ終ニ常備
 年期ノ第三年検査時限ニ至リ猶其事故等ノ存シ既ニ明治十七年
 ノ徵集ニ於テ平時免役又ハ國民軍ノ外免役トナリタルモノハ新
 令實施後其名稱ヲ止ムルモ徵集スルコトアルマシ然レモ未ダ其三

豫備徵兵

年ヲ終ラザル者ニ在テハ若シ新令實施以後ニ於テ年齡滿二十七
 歳迄ニ其名稱ヲ止ムルカ又ハ徵集猶豫翌年廻シ等ノ件ニシテ新
 令ニ掲載ナキモノハ更ニ現役ニ徵集セラルベキモノトス
 平時免役ニ屬シ第四十九條(抽籤ノ上落籤ニ依リ平時ニ於テ兵役ヲ
 免セラルタル者)及ビ第五十一條但書(補充籤ヲ抽キ補充兵トナリタ
 ル者其年四月廿日ヨリ起算シテ滿一ケ年ニ入營ノ命ナキニ依リ平
 時ニ於テ免役トナリタル者)ニ當ル者ハ第一豫備徵兵ト爲シ第二十
 九條第三十四條ニ當ル者ハ第二豫備徵兵トシ各年齡三十歳迄ハ戰
 時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尙兵員ヲ要スル時
 ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供
 スルコトアルベシ
 舊令第三十六條

〔註記〕 本條ニ云フ第三十四條トハ第三十五條ノ本文ニ掲グル第
三十四條ニ準^シタル者モ包含^ススベシ

第四十九條又ハ第五十一條但書ニ掲ケタル落籤ニ依リ又ハ補
充兵ニシテ一ケ年内徴集ノ命ナキニ依リ平時免役ニ属シ第一
豫備徴兵トナリ未ダ其年齢二十七歳ニ至ラサル者ハ新令第三
十一條及ビ第三十二條ニ依リ其年齢滿二十七歳迄第一豫徴徴
員トセラレ滿二十八歳ヨリ滿三十二歳迄第二豫備徴員トセラ
ルベシ

又舊令第二十九條第三十四條ニ當ル者ニシテ既ニ第二豫備徴
兵トナシタル者ハ新令第三十二條ニ依リ年齢滿三十二歳迄ハ
第二豫備徴員トセラルベシト雖^モ第二十八條ノ各項ニ當リ國民
軍ノ外免役ニ属シ常備年期ノ第三年ヲ過ギタルモノ及ビ第三十

四條ノ但書ニ當リ國民軍ノ外免役ニ属シタル者ニ在テハ已ニ舊
令ニ於テ假令以後其名稱ヲ止ムルモ國民軍ノ外徴集スルヲ免
サレタル者ナルニ依リ豫備徴員ヲモ免カルベキモノト考フ然レ
モ其未ダ常備年期ノ第三年ヲ過キサル者ニ在テハ未ダ國民軍ノ
外^ニ徴集ヲ免カレタリト云フヘカ^ラサルモノ(名稱ヲ止ムル^ハ
ハ常備軍ニ徴集セラル、者タレハ新令第三十二條ノ明文ニ據リ
年齢滿三十二歳迄ハ豫備徴員トセラルヘキモノトス

編者曰

前條々註記スル處ハ素ヨリ小生ノ管見ニ出タルモノタレハ其確實
タルヲ保ス能ハス殊ニ舊令ニ於テ一旦免役等ニ係リタル者ヲシテ
新令實施以後徴集猶豫シ或ハ全ク免役ニ處スルカ如キニ至テハ新
令第四十五條ノ明文アルヲ以テ更ニ條規ノ頒布アルヘキモノト想

像ス而シテ刑法民法等ト異ナリ行政上ノ處分ニ於テハ既往ニ及ホ
スコナキニシモアソサレハ舊令ニ於テ免役セブレシ者ト雖モ新令
ニ於テ徵集スルコソナルヲ保セス蓋シ是等ニ於テハ後令ノ出ッ
ルヲ待テ其如何ヲ了スヘシ依テ茲ニ一言ヲ付ス

正誤廣告

徵兵免否一覽表中(特ニ徵集ヲ免カルヘキ者)ノ欄十五行(免役後三)ハ
〔七〕ノ誤同廿行(國民軍ノ外)五字ヲ贅ス

○追録 改正以前ノ戸主徵集ノ例規

○陸軍省

千葉縣ヨリ改正徵兵令第二十二條第七項ニ付伺

改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ若區別ナシト
セハ十二年十月廿七日以前ニ溯ルヤ

明治十七年一月十一日

指令

本月十一日電報改正徵兵令第二十二條七項ハ改正前後ノ區別ナキヤ云
々伺ノ儀伺之通十七年一月以後二十歳トナル者ハ總テ新令ニ據リ處
分スル儀ト心得ヘシ

明治十七年一月十五日

編者曰ク戸主免否ニ付各人喋々論スル處ヲ聽クニ新令頒布即チ

明治十六年十二月廿七日以前ニ戸主トナリタル者ハ前戸主年齢満六十歳未滿ナルモ法ノ既往ニ及ホサ、ル原則ニ據リ十七年以後適齡ノ者タリ共新令第十七條第五項ニ照シ徵集猶豫セラルヘシト予ハ其說ニ服セス若シ法ノ既往ニ及ホサ、ル原則ヲ以テ論スレハ單リ戸主ニ限ラス舊令ニ於テ既ニ除役免役ノ各項ニ該當セシモノハ總テ舊令ニ據テ處分セラルヘキ筈ナリ然ルモハ新令ノ實効ヲ見ル數年ヲ待タサルヲ得ス殊ニ刑法等ニ在テハ法ノ既往ニ及ホスヲナシト雖モ行政上ノ處分ニ於テハ既往ニ及ホスヲアリシハ隨分其例アリシヲ以テ予ハ斷シテ新令發布以前ノ適齡者ニシテ既ニ免役トナリ其名稱ヲ繼續スルモノハ陸軍省達第十四號達ニ因リ徵集セサルモ其適齡以前ニシテ未タ現ニ免役ノ處分ヲ受ケサルモノニ在テハ假令戸主タリトモ新令第十七條第

五項ニ該當セサルモノニシテ徵集猶豫ナラサルヘキヲ註記シ本書印行ニ及ヒ今小生ノ管見ヲ確カムヘキ一例ヲ得タルヲ以テ茲ニ之ヲ追記ス

明治十六年十二月廿八日出板御届

定價金二拾五錢

著者兼出板人

東京府土族
市岡正一

東京府下四ッ谷區永
住町廿一番地

東京銀座四丁目

博聞本社

發

大坂心齋橋通南
久寶寺町四丁目

全分社

千葉縣下千葉

全分社

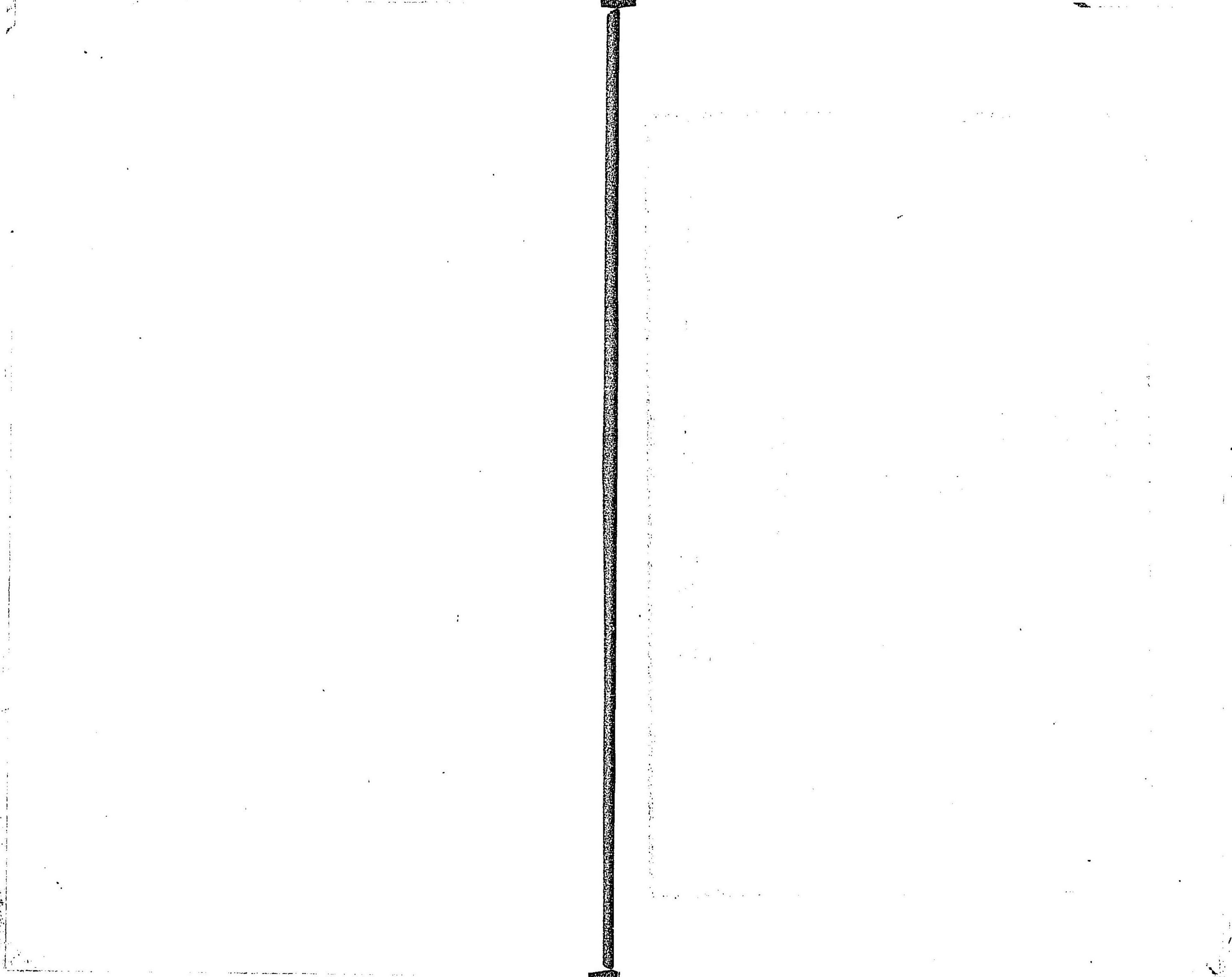
兌

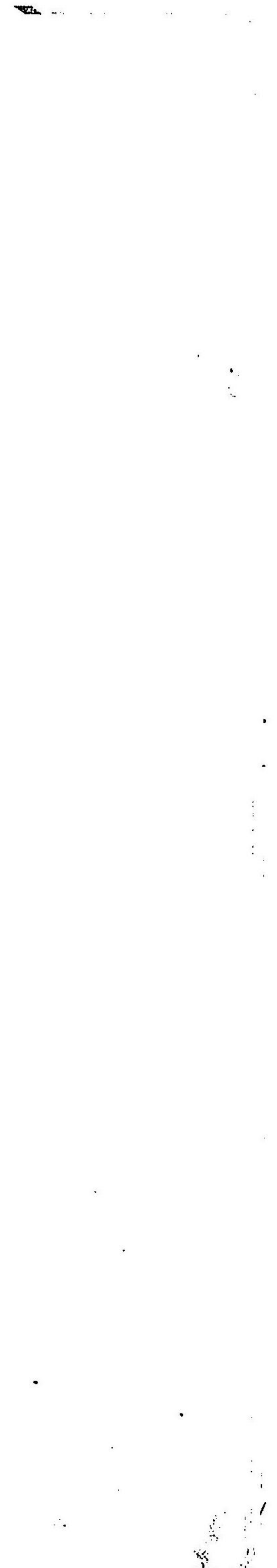
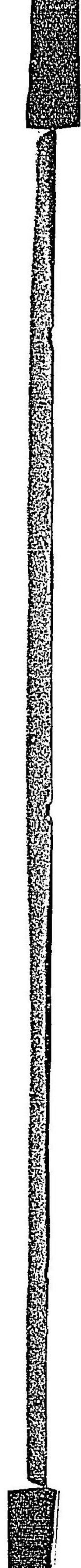
埼玉縣下浦和

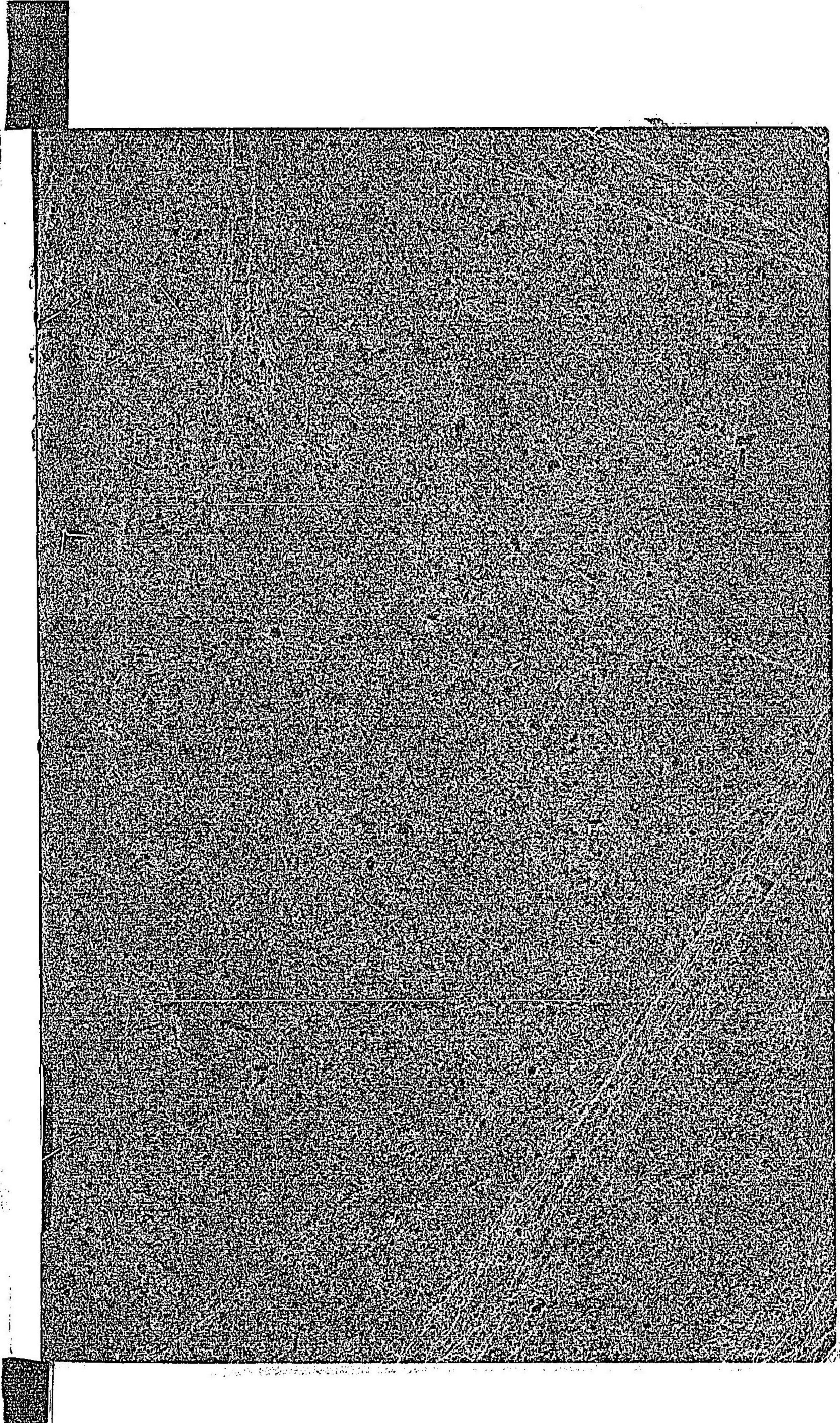
全分社

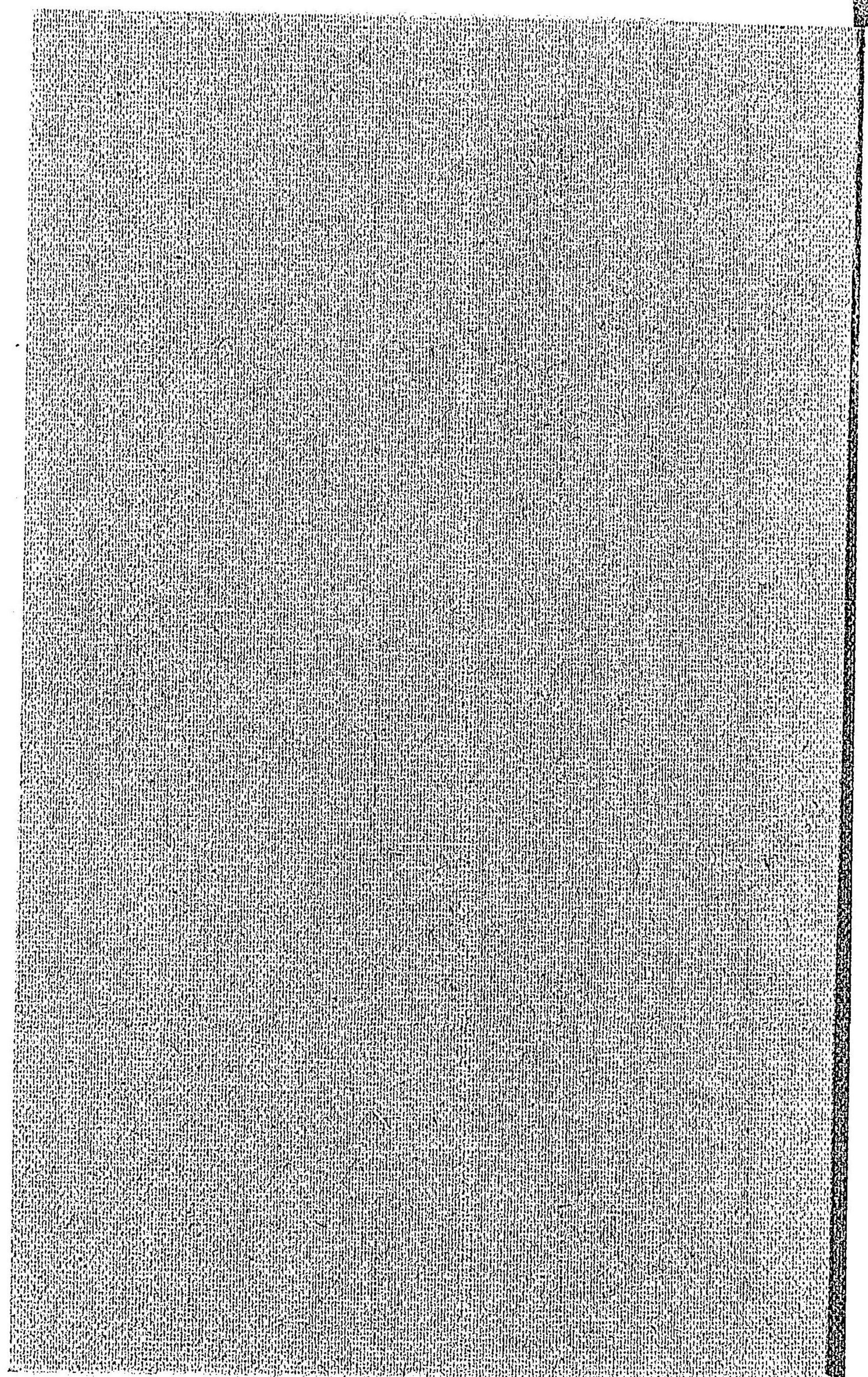
神戸榮町四丁目

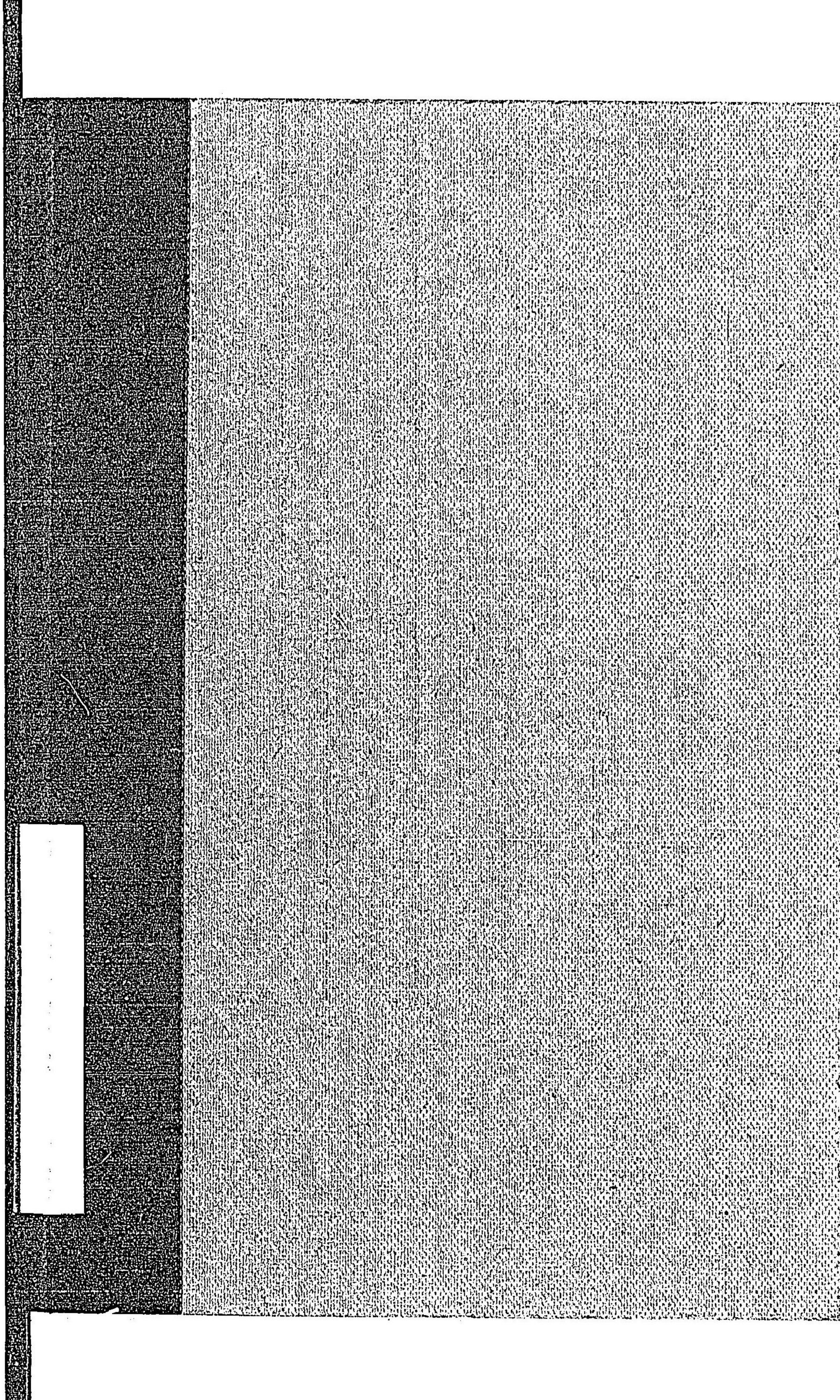
長尾商店











特47

10

改正 徴兵令註釋

国立国会図書館

038912-000-7

特47-10

改正徴兵令註釈

市岡 正一/著

M16.12

BCC-0133



